

『蝦夷島奇観』写本の研究（一）

東 俊佑

Key Words

蝦夷島奇観 (Ezogashima Kikan)、秦檜丸・檜麿 (HATA Awakimaru, Awakimaro)、村上島之允 (MURAKAMI Shimanojo)、アイヌ絵 (Ainu-e)、アイヌ風俗画 (Ainu genre painting)

はじめに

1799（寛政11）年に成立した秦檜丸（村上島之允）の蝦夷地紀行画集は、幾度の増補改訂を重ね、秦檜麿自筆『蝦夷島奇観』⁽¹⁾（国指定重要文化財、東京国立博物館所蔵、以下「東博本」と称す）として完成したとされる（谷澤・佐々木 1982：230）。同書は、失われつつあるアイヌの生活や慣習を後世に伝えることを目的に、絵と詞書により表現するという方法に拠った作品であった（谷澤・佐々木 1982：229）。すなわち、歴史資料としての価値をふんだんに有しており、近世蝦夷地研究やアイヌ文化史研究の促進に寄与する史料と評価できるものである。

一方で、『蝦夷島奇観』は絵画作品であるため、鑑賞を目的とした美術品としての価値の見極めも肝要である。筆者はこれまで文字情報の操作を主とする歴史研究に携わってきたので、鑑賞作品としての価値を論じる能力を持ち合わせてはいないが、現在、『蝦夷島奇観』写本が多数存在し、またそのなかのワンシーンを絵画作品として仕立てた事例⁽²⁾が数多く見受けられることからしても、それが全く皆無とはならないとは言える。歴史を物語る資料である故に写本が生産される一方で、檜丸の作品に鑑賞価値を認めた後世の画家あるいは注文主により、より優れた作品を目指した模写本、あるいはオリジナルな要素を含んだ作品の作製が行われたのである。

『蝦夷島奇観』写本は、少なくとも65以上が現存していると想定される⁽³⁾。また、そのなかのワンシーンを

描写した絵画作品を含めれば、相当な数になると推察できる。写本あるいは類本の数の多さとそれに対する疑問は、それ自体が歴史研究のテーマにもなりうる。

歴史資料としての『蝦夷島奇観』に注目した場合の興味深い現象は、各写本による収録シーンの数の差異や、各シーンの絵や詞書の内容の差異である。こうした点の緻密な情報抽出と内容の対比分析、及び各写本間の時系列確定とカテゴリー化は、写本の系統解明につながり、新たな史料の発掘と研究可能性に寄与することになる。

その一方で、『蝦夷島奇観』写本の研究が困難な点は、流布本の数の多さに起因する問題のみならず、『蝦夷島奇観』が増補改訂され東博本として完成するに至るとされる特殊な成立事情にある。すなわち、現存する多くの写本は完成形とされる東博本から派生したわけではなく、東博本に至る前段階の写本やその一部から派生している可能性を想定しなければならない点である。さらには、檜丸自筆とされる蝦夷地紀行画集（東博本の前段階の作品）の数・種類とその所在情報が明確ではない点も事態をより一層複雑にしている。

以上の問題点を析出するならば、まず取り組まなければならない調査研究活動は、『蝦夷島奇観』写本の悉皆調査（所在把握）であり、資料情報の抽出と整理である。本研究は、以上の問題の所在に基づき、以下にそれを整理するものである。本稿は、その2023（令和5）年度調査の一部を報告するものである。

〈凡例〉レイアウトの都合上、91頁に示した。



当館所蔵『蝦夷島奇観』写本より（写真左：75頁の調査番号1、写真中央：76頁の調査番号2、写真右：77頁の調査番号3）

東博本の構成と画題

※アイヌ語表記に見られる促音、拗音を示す傍線表示は「ニカツプ」→「ニカッパ」、「シヤ」→「シャ」などと置き換えた。

通番	巻番	部	画題 (料紙)	画題 (目録)	通番	巻番	部	画題 (料紙)	画題 (目録)
1	1-1	一 古説部	(序)	—	68	7-4	七 漁獵部地図部	アマクウ図	アマグウ図
2	1-2	一 古説部	(古説部目録)	古説部	69	7-5	七 漁獵部地図部	(捕鷲図)	捕鷲図
3	1-3	一 古説部	蝦夷諸島図	蝦夷諸島図	70	7-6	七 漁獵部地図部	シイベ	衝鮭図
4	1-4	一 古説部	(造島神図)	造島神 (ユルモシリカモイ) 図	71	7-7	七 漁獵部地図部	ラシヤマンベ地図	ラシヤマンベ地図
5	1-5	一 古説部	女神窟居図	女神窟居図	72	7-8	七 漁獵部地図部	カヤヘノホリ図	カヤヘノホリ図
6	1-6	一 古説部	(女神窟居説)	同説	73	7-9	七 漁獵部地図部	エシヤニノホリ図	エシヤニノホリ図
7	1-7	一 古説部	(男夷図)	男夷図	74	7-10	七 漁獵部地図部	エンルモ崎	エリモ寄図
8	1-8	一 古説部	(女夷図)	女夷図	75	7-11	七 漁獵部地図部	(シノタイ地図)	シノタイ地図
9	1-9	一 古説部	シャバウベ	シャバウベ図	76	7-12	七 漁獵部地図部	(トモチクシ地図)	トモチクシ地図
10	1-10	一 古説部	女夷文手図	女夷文手図	77	7-13	七 漁獵部地図部	(附録 見初月図)	附録 見初月図
11	1-11	一 古説部	女夷文手説	同説	78	8-1	八 臚舘漁部	(オットセイ猟説)	※目録なし
12	1-12	一 古説部	シトキ図	シトキ図	79	8-2	八 臚舘漁部	(オットセイ猟準備図)	※目録なし
13	2-1	二 礼部	(礼部目録)	礼部	80	8-3	八 臚舘漁部	(オットセイ銃突図)	※目録なし
14	2-2	二 礼部	拝礼図	ランカミ図	81	8-4	八 臚舘漁部	とり獲て家に帰る図	※目録なし
15	2-3	二 礼部	其二 (ランカミ図其二 (列座))	其二	82	8-5	八 臚舘漁部	(獲来て会所に出す図)	※目録なし
16	2-4	二 礼部	其三(ランカミ図其三(ウリリ))	其三	83	8-6	八 臚舘漁部	塩製になしたる図	※目録なし
17	2-5	二 礼部	其四(ランカミ図其四(女夷礼))	其四	84	8-7	八 臚舘漁部	海狗腎	※目録なし
18	2-6	二 礼部	病衆	タシュニクル図	85	8-8	八 臚舘漁部	(オットセイ浮睡図)	※目録なし
19	2-7	二 礼部	(ヲチュエ図 (葬礼図))	ヲチュエ図	86	8-9	八 臚舘漁部	ヲ、ツップ図	※目録なし
20	2-8	二 礼部	(ヲチュエ図其二 (家焼却))	其二	87	8-10	八 臚舘漁部	(本草綱目からの引用)	※目録なし
21	2-9	二 礼部	(ヲチュエ図其三(メッカウチ))	其三	88	9-1	九 写生部	(写生部目録)	写生部
22	2-10	二 礼部	男夷墓・女夷墓	墓図	89	9-2	九 写生部	イドヒリカチカップ図	イトヒルカ
23	2-11	二 礼部	西夷地墓	西夷地墓図	90	9-3	九 写生部	カシケクロクチ (山岸)	カシケクロクチ
24	3-1	三 礼部	(婚礼飲酒法制部目録)	婚礼飲酒法制部	91	9-4	九 写生部	ドカリ (水豹)	トカリ
25	3-2	三 礼部	マチコル (婦造) 図	マチコル図	92	9-5	九 写生部	チシュキナ写生	チシュキナ
26	3-3	三 礼部	(マチコル説)	同説	93	9-6	九 写生部	イケマ図	イケマ
27	3-4	三 礼部	(飲酒図)	飲酒図	94	9-7	九 写生部	コリコニ図	コリコニ
28	3-5	三 礼部	(タフカリ図)	タフカリ図 ※目録では皺絨図の順	95	9-8	九 写生部	アムラクル	アムラクル
29	3-6	三 礼部	カ写生	カ写生図	96	9-9	九 写生部	シリキトップ (文竹) 図	シリキトップ
30	3-7	三 礼部	(皺絨図) ※(カ演奏図)、ランヌマニ写生、モセキナ写生の3つの絵あり	皺絨図 ※目録ではタフカリ図の順	97	9-10	九 写生部	タビドンベコルベ	タビドンベコルベ
31	3-8	三 礼部	ウカリ稽古図	ウカリ稽古図	98	9-11	九 写生部	ソイ	ソイ
32	3-9	三 礼部	(ウカリ真行図)	同真行図	99	9-12	九 写生部	(アブラコ写生)	アブラコ
33	3-10	三 礼部	(ニヨエン図)	ニヨエン図	100	9-13	九 写生部	キナポー	キナポー
34	3-11	三 礼部	(サイモン図)	サイモン図	101	10-1	十 雑図部	(近夷地雑図部目録)	近夷地雑図部
35	4-1	四 居家部	(居家部目録)	居家部	102	10-2	十 雑図部	箱館市中図	箱館市中図
36	4-2	四 居家部	近蝦夷地居家図	近蝦夷地居家図	103	10-3	十 雑図部	(箱館婦女図)	同婦女図
37	4-3	四 居家部	西夷地居家図	西夷地居家図	104	10-4	十 雑図部	(すりかゝる図)	すりかゝる図
38	4-4	四 居家部	(家器宝械図)	家器宝械図	105	10-5	十 雑図部	(古陶器図)	古陶器図
39	4-5	四 居家部	古椀 (フシコイタンキ) 図	古椀図	106	10-6	十 雑図部	(古碑図)	古碑図
40	4-6	四 居家部	(ニカッパを剥図)	ニカッパを剥図	107	10-7	十 雑図部	モチブ図	モチブ図
41	4-7	四 居家部	アッドシカル図	アッドシカル図	108	10-8	十 雑図部	(昆布採図)	昆布採図
42	4-8	四 居家部	ニカッパ枝葉写生	ニカッパ枝葉写生	109	10-9	十 雑図部	(昆布図)	昆布図
43	4-9	四 居家部	カナチ チミップ アヤシノカル図 (女児衣服文造図)	アヤシノカル図	110	10-10	十 雑図部	(農女図)	農女図
44	5-1	五 器械部	(器械部目録)	器械部	111	10-11	十 雑図部	(土埴図)	土埴図
45	5-2	五 器械部	ヘラシトミカモイ	ヘラシトミカモイ図	112	10-12	十 雑図部	ムカワ夷ホインガール肖像	ホインガール肖像
46	5-3	五 器械部	ヘラシトミカモイ写生	同写生	113	11-1	十一 諸外島図	(東夷諸外島之部目録)	東夷諸外島之部
47	5-4	五 器械部	(イナホ図)	イナホ図	114	11-2	十一 諸外島図	祖父嶽 (チャヤノホリ) 図	チャヤノホリ図
48	5-5	五 器械部	(エモシ図)	エモシ図	115	11-3	十一 諸外島図	(鑑岩図)	鑑岩 (アヨッベシユマ) 図
49	5-6	五 器械部	アヨッベ	アヨウヘ図	116	11-4	十一 諸外島図	(エトロー島夷図)	エトロー島夷図
50	5-7	五 器械部	チャシ図	チャシ図	117	11-5	十一 諸外島図	シウカルウシ写生	エブリコ写生
51	5-8	五 器械部	弓矢鞆 (クウアイイカエツ) 図	弓矢鞆図	118	11-6	十一 諸外島図	モロチキナ写生	モロチキナ写生
52	5-9	五 器械部	大船 (ホロチブ) 図	大舟図	119	11-7	十一 諸外島図	テンキ図	テンキ図
53	5-10	五 器械部	舟 (チブ) 図	舟図	120	11-8	十一 諸外島図	(鳥図)	鳥 (バシクル) 図
54	5-11	五 器械部	舟具図	舟具図	121	11-9	十一 諸外島図	クンチチロノッポ図	黒狐図
55	5-12	五 器械部	(石刀石劍鎌石図)	石刀石劍鎌石図	122	11-10	十一 諸外島図	(ラッコ図)	ラッコ図
56	5-13	五 器械部	(古陶器図)	古陶器図	123	11-11	十一 諸外島図	(ケ子トブシ肖像)	ケ子トブシ肖像
57	5-14	五 器械部	(古陶器図其二)	其二	124	12-1	十二 唐太部	(唐太部目録)	唐太部
58	5-15	五 器械部	(古陶器図其三 附雷斧)	其三 附雷斧	125	12-2	十二 唐太部	(唐太島夷図)	唐太島夷図
59	6-1	六 熊祭部	白紙	—	126	12-3	十二 唐太部	シラヌシ地図	シラヌシ地図
60	6-2	六 熊祭部	(熊祭踊図)	※目録なし	127	12-4	十二 唐太部	使犬引舟引図	使犬引舟引図
61	6-3	六 熊祭部	(熊祭花矢射図)	※目録なし	128	12-5	十二 唐太部	(判官岬図)	判官岬図
62	6-4	六 熊祭部	(熊祭扶殺図)	※目録なし	129	12-6	十二 唐太部	カラフト椀 (イタンキ)	カラフト椀図
63	6-5	六 熊祭部	(熊祭神酒飲図)	※目録なし	130	12-7	十二 唐太部	唐人 (カラフト) 島酋長墓	男夷墓
64	6-6	六 熊祭部	(熊祭酒宴図)	※目録なし	131	12-8	十二 唐太部	カラフト女夷墓	女夷墓
65	7-1	七 漁獵部地図部	(漁獵部地図部目録)	漁獵部 地図部	132	13-1	附録 三邑図	松前島地図	※目録なし
66	7-2	七 漁獵部地図部	鱒漁 (ヘロキコイキ) 図	ヘロキコイキ図	133	13-2	附録 三邑図	(松前島説)	※目録なし
67	7-3	七 漁獵部地図部	ヘロキ写生	ヘロキ写生	134	13-3	附録 三邑図	箱館島地図	※目録なし
					135	13-4	附録 三邑図	(箱館島説)	※目録なし
					136	13-5	附録 三邑図	江差島地図	※目録なし
					137	13-6	附録 三邑図	(江差島説)	※目録なし

※画題の () はルビ表記を示す。ただし、() 内の () を除く。

資料名	蝦夷島奇観		数量	1巻	形態	卷子本	所蔵	北海道博物館	所蔵番号	71920	調査番号	1	
法量	本紙：約26×1610cm、巻径7.5cm、軸長26.5cm、軸径2.0cm												
註記	紙本着色、卷子装(裏打あり)、箱なし												
構成	場面番号と画題						絵	詞書	東博本	備考			
見返	28.8cm										見返の法量は八双を含む。		
第1紙	58.4cm	1	〔序〕				×	○	1-1	第1紙の右上に関防印あり。序文に款記なし。			
第2紙	59.6cm	2	〔女神窟居図・女神窟居説〕				○	○	1-5、1-6	絵と詞書を同一場面に描写(東博本は別場面)。女神の着物に青色系の着色(東博本は白色系)。			
		3	クナシリ島イコリカヤニ肖像 酋長(ヲトナ) トーキーイ三男(男夷図)				○	○	1-7	東博本には「クナシリ島イコリカヤニ肖像 酋長(ヲトナ) トーキーイ三男」の画題なし。			
第3紙	59.5cm	4	メノコ又メノコシ(女夷図)				○	○	1-8	口縁部の入墨の描写が強調。首飾りの器に薄黒色系の着色(東博本は赤色系)。			
第4紙	59.5cm	5	〔女夷文手図・女夷文手説〕				○	○	1-10、1-11	絵と詞書を同一場面に描写(東博本は別場面)。袖口の描写なし。			
		6	シヤハウベ(シャバウベ図)				○	○	1-9				
第5紙	59.3cm	7	シトキ(シトキ図)				○	○	1-12	銀器に薄黒色系の着色(東博本は赤色系：彫漆)。			
第6紙	59.7cm	8	イメホ(イナホ図)				○	○	5-4				
第7紙	59.0cm	9	獵虎図(ラッコ図)				○	○	11-10				
		10	〔オットセイ獵準備図〕				○	○	8-2	詞書あり(東博本には詞書なし)。			
第8紙	59.7cm	11	〔オットセイ銚突図〕				○	○	8-3	詞書あり(東博本には詞書なし)。突銚を回転式離頭銚として描写(東博本は鈎銚)。			
		12	〔獲来て会所に出す図〕				○	○	8-5	下賜品に着物の描写あり(東博本はタバコと米俵のみ)。			
第10紙	59.6cm	13	ウネヲ塩製の図(塩製になしたる図)				○	×	8-6	オットセイの腹の裂け目に赤色系の着色。			
		14	タケリ(海狗腎)				○	×	8-7	詞書なし(東博本には詞書あり)。場面15の詞書の冒頭下部に絵のみ描写。タケリに赤色系の着色(東博本は茶色系)。			
		15	温納臍の話(オットセイ獵総説・オットセイ浮睡図)				○	○	8-1、8-8	場面上部に東博本のオットセイ獵総説風の詞書を記し、下部に浮睡図を描写。オットセイは左向き・うつ伏せに描写(東博本は右向き・横向き)。			
第11紙	59.3cm	16	蝦夷舎屋之図(近蝦夷地居家図)				○	○	4-2				
第12紙	59.7cm	17	蝦夷舎屋之図(西夷地居家図)				○	○	4-3	木に木幣の描写なし。			
		18	〔家器宝械図〕				○	×	4-4	文字の記載なし。家器の描写が東博本より簡素。			
第13紙	59.4cm	19	〔マチコル図(婦造図)・マチコル説〕				○	○	3-2、3-3	絵と詞書を同一場面に描写(東博本は別場面)。			
第14紙	59.6cm	20	〔飲酒図〕				○	○	3-4	詞書4つあり。2~3つ目は「リムセまたタフカリ」に係る詞書(東博本3-5「タフカリ図」の描写なし。本資料の場面31に絵あり)。詞書4つ目の漢詩に落款及び印章2種あり、漢詩の前に関防印あり。			
第15紙	60.0cm	21	イヨマンテ(熊祭踊図)				○	○	6-2	東博本より衣装の着色が鮮やか。アイヌ有力者は陣羽織着用。クマ檻の上に岩の描写あり。衣服を着用した子ども2人が描写。			
第16紙	59.0cm	22	イヨマンテ(熊祭花矢射図)				○	○	6-3	東博本より衣装の着色が鮮やか。アイヌ有力者は陣羽織着用。子どもは衣服着用。			
第17紙	59.5cm	23	〔弓矢鞆図〕				○	○	5-8	ラルマニ写生の詞書の記載なし。			
第18紙	59.5cm	24	アマブ又アマボ(アマクウ図)				○	○	7-4	末尾に漢詩あり(落款と印章2種あり)。キツネの左に木の描写あり。草の描写が豊富。			
第19紙	59.1cm	25	イクランベ 飲酒(ランカミ図其二(列座))				○	○	2-3	左と中央の人物は陣羽織着用。衣服の文様表現が複雑。ゴザの色彩が鮮やか。			
第20紙	59.1cm	26	ウリ、(ランカミ図其三(ウリリ))				○	○	2-4	耳飾り・小刀の描写なし。女性の口縁部に入墨の描写あり。			
		27	〔ランカミ図其四(女夷礼)〕				○	○	2-5	次の場面28との間(第20紙の末尾)に「弓矢鞆」に係る詞書4行あり。			
第21紙	59.1cm	28	〔熊祭挾殺図〕				○	○	6-4	東博本より衣装の着色が鮮やか。子どもは衣服着用。クマの口周辺に血の描写あり。			
第22紙	59.7cm	29	〔熊祭神酒飲図〕				○	○	6-5	東博本より衣装・装飾の彩度が高い。祭壇に着物の描写あり。アイヌ有力者は陣羽織着用。			
第23紙	58.9cm	30	〔熊祭酒宴図〕				○	○	6-6	末尾に漢詩あり(落款と印章2種あり)。東博本より衣装・装飾の彩度が高い。アイヌ有力者は陣羽織着用。			
		31	〔タフカリ図〕				○	×	3-5	詞書なし。詞書は場面20に「リムセまたタフカリ」として記載。人物の衣装が樹皮衣中心(東博本は絹の小袖や鳥羽衣等種類が豊富)。			
第24紙	59.8cm	32	〔ウカリ稽古図〕				○	○	3-8	詞書は東博本3-9〔ウカリ真行図〕の内容。棒で叩かれる人物が背負う毛皮は毛のある方を内側に描写(東博本は逆)。			
		33	ウカリ(ウカリ真行図)				○	○	3-9	詞書は東博本3-8ウカリ稽古図の内容。笹の葉を水に付ける器が漆器(東博本は蓋付きの木の容器)。			
第25紙	59.5cm	34	〔鼓絃図〕				○	○	3-7	東博本3-7〔鼓絃図〕の詞書の記載なし。漢詩あり(落款と印章2種あり)。漢詩の前に関防印あり。絵は〔力演奏図〕とモセキナ写生の2つのみ(ランヌマニ写生の絵はなし)。			
第26紙	59.0cm	35	カ(カ写生)				○	○	3-6	東博本に詞書はないが、ここでは東博本3-7〔鼓絃図〕の詞書を改変した文を掲載。			
		36	サイモン 探湯(サイモン図)				○	○	3-11				

第27紙 68.4cm	37 (ニヨエン図)	○	×	3-10	
	38 (ヲ、子ツッ図)	○	×	8-9	漢詩あり(落款と印章2種あり)。漢詩の前に関防印あり。
奥付 17.2cm					奥付の法量は軸を含む。
摘要	<p>【体裁の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本資料の本紙に使われている料紙は、横の長さが59cm前後(第27紙のみ68.4cm)である。樟丸自筆本などで使用の料紙は縦27×横39cm前後の薄美濃紙が一般的なので、比較的大きなサイズの料紙を用いていると言える。紙の厚さも一般的な古文書に使われる和紙よりも厚口で、紙漉きの竹簧や結び紐の痕も薄い。 この厚口の本紙に薄口の白色和紙を裏打ちし、さらにやや厚口の紙で裏打ちした卷子装(3枚重ね)である。そのためか、卷子の所々に折れ皺が強く出ている。 料紙数枚を継ぎ合わせたものを一つの継紙とし、それらを貼り合わせて一つの卷子に仕立てている。 料紙をまたいで描写している場面が多数ある。すなわち、料紙1枚に描いた各場面を貼り合わせたのではなく、ある程度の長さの継紙に絵と詞書を直接描写したものである。 第20紙末尾(場面27の後)の「弓矢鞆」に係る詞書4行は、場面23(第17紙)の冒頭の詞書と考えられる。すなわち、《第19紙→第20紙》の継紙と《第17紙→第18紙》の継紙は、装幀の際に順序を誤って貼り合わせたと考えられる。 <p>【内容の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵は38図ある(場面1には絵がなく、場面35には2図ある)。 絵の描写は比較的細密である。例えば毛の描写は一本一本を丁寧に描いている。 樟丸が『蝦夷島奇観』を作製したころには一般的ではない(幕末期の)風俗描写が絵の中に見られる。例えば、場面21・22の陣羽織を羽織るアイヌ有力者、衣装を羽織る子どもなど(樟丸の時代のアイヌ有力者は絹の小袖であり、子どもは全裸)。 詞書は東博本、あるいはその一部の借用であるが、多くは東博本とは一致しない別物である(本資料オリジナルの詞書が多い)。したがって、『蝦夷島奇観』模写本とは懸隔した作品であり、「蝦夷島奇観」の名と絵の構図及び詞書の一部を仮託した別作品とも言える。 <p>【関係文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山際晶子「北海道開拓記念館所蔵の『蝦夷島奇観』写本をめぐる一平沢屏山筆絵画との関係―『北海道開拓記念館』第40号、2012年 ※本資料の考察と図版・釈文が掲載されている。上記摘要の一部は本文献を参考に記した。 				

資料名	蝦夷島奇観	数量	1巻	形態	卷子本	所蔵	北海道博物館	所蔵番号	126247	調査番号	2
法量	本紙:約27×1327cm、巻径7.0cm、軸長30.0cm、軸径2.0cm										
註記	紙本著色、卷子装(裏打ちあり)、箱あり(33.3×9.2×7.5cm)、箱裏書あり、妻沼コレクション、安政4年(1857)の年記あり、早坂文嶺作										
構成	場面番号と画題		絵	詞書	東博本	備考					
見返 27.7cm						見返の法量は八双を含む。左下に印あり。					
第1紙 35.7cm	1	{序}	×	○	1-1	序文に款記なし。					
第2紙 38.7cm	2	{女神窟居説}	×	○	1-6	場面3の詞書として描写。					
第3紙 38.5cm	3	{女神窟居図}	○	×	1-5	場面2の絵として描写。女神に赤色系の着色の袴の描写あり(東博本は白色系の着色の着物のみ)。洞窟外に木の描写あり。海岸の船に櫓の描写あり。船上に状箱の描写なし。					
第4紙 24.2cm	4	クナシリ島イコリカヤニ肖像 酋長トーキイ三男(男夷図)	○	○	1-7	東博本には「クナシリ島イコリカヤニ肖像 酋長トーキイ三男」の画題はなし。					
第5紙 32.1cm	5	メノコ(女夷図)	○	○	1-8	第5紙の左上に鉛筆で「一」とあり。女夷の衣装の色などに東博本と相違あり。					
第6紙 38.2cm	6	{女夷文手図・女夷文手説}	○	○	1-10、1-11	第6紙の右上に鉛筆で「一」とあり。袖口の描写なし。					
第7紙 36.0cm	7	ニシカ子耳環	○	×	×	東博本に場面なし。					
第8紙 25.1cm	8	シヤバウベ又イナウル(シヤバウベ図)	○	○	1-9						
第9紙 38.7cm	9	シトキ(シトキ図)	○	○	1-12	器(銀器)に薄黒色系の着色(東博本は赤色系の着色:彫漆)。					
第10紙 22.4cm	11	フツアイカエツツ 弓矢鞆 図	○	○	5-8	第9紙左上及び第10紙右上に鉛筆で「二」とあり。ラルマニ写生の絵と詞書なし。					
第11紙 15.3cm	12	{計測図}	○	○	×	東博本にはない絵と詞書。					
第12紙 18.7cm	12	{計測図}	○	○	×						
第13紙 32.4cm	13	ウリ、(ヲンカミ図其三(ウリリ))	○	○	2-4	東博本と比べて着物の彩度が低い。					
第14紙 38.3cm	14	{ヲンカミ図其四(女夷礼)}	○	○	2-5	耳金に赤い布の描写あり。腰マキリの描写なし。					
第15紙 38.2cm	15	ウカリ(ウカリ稽古図・ウカリ真行図)	○	○	3-8、3-9	東博本3-9ウカリ真行図の詞書を改変した文あり。絵は東博本の稽古図と真行図の一部を仮託して一つの絵として描写。棒で叩かれる人物が背負う毛皮は毛のある方を内側に描写(東博本は逆)。					
第16紙 3.1cm	16	サイモン 探湯(サイモン図)	○	○	3-11	女性の耳金に赤色系の布の描写あり。					
第17紙 33.6cm	17	アマブ(アマクウ図)	○	○	7-4	第16紙左上に鉛筆で「三」とあり。					
第18紙 38.4cm	18	舎屋の図(近蝦夷地居家図)	○	○	4-2	第17紙右上に鉛筆で「三」とあり。東博本より彩度が低い。					
第19紙 38.2cm	19	{家器宝械図}	○	○	4-4	家屋の左に木幣や頭骨の描写なし。東博本より彩度が低い。					
第20紙 2.2cm	19	{家器宝械図}	○	○	4-4	第20紙左上に鉛筆で「四」とあり。漆器に文様の描写なし。漆器の描写数が少ない。					
第21紙 34.1cm	20	{ヲンカミ図其二(列座)}	○	×	2-3	3人とも陣羽織着用。ゴザの彩度が高い。中央と右の人物の衣服は文様の描写が複雑で彩度が高い。					
第22紙 38.4cm	20	{ヲンカミ図其二(列座)}	○	×	2-3						
第23紙 10.8cm	21	{飲酒図}	○	○	3-4	中央の男性は陣羽織着用。					
第24紙 30.1cm	22	リムセ又ツフカリ	○	○	※3-5	東博本3-5にはない絵と詞書。第24紙左上及び第25紙右上に鉛筆で「五」とあり。					
第25紙 27.4cm	22	リムセ又ツフカリ	○	○	※3-5						

第26紙 10.5cm	23	カ (カ写生)	○	○	3-6	東博本3-6には詞書がない。カは左上から右下へ斜めに描写 (東博本は左右)。
第27紙 38.2cm	24	(誠絃図)	○	○	3-7	絵は (カ演奏図) のみ (モセキナ写生、ランヌマニ写生の絵はなし)。
第28紙 36.8cm	25	狷虎図 (ラッコ図)	○	○	11-10	
第29紙 22.4cm	26	温訥臍の話 (オットセイ猟総説・オットセイ猟準備図)	○	○	8-1、8-2	末尾に和歌あり (「文嶺」の署名あり)。第30紙左上に鉛筆で「六」とあり。海岸の船と3人の男性の絵なし。
第30紙 38.4cm						
第31紙 37.4cm	27	(オットセイ鋸突図)	○	○	8-3	第31紙右上に鉛筆で「六」とあり。漢詩あり (「文嶺草」の署名と印章2種あり)。突鋸は回転式離頭鋸として描写 (東博本は鉤鋸)。船上の人物は2名 (東博本は3名)。岩礁の絵あり (東博本はなし)。
第32紙 9.0cm						
第33紙 32.7cm	28	(獲来て会所に出す図)	○	○	8-5	米俵と酒樽を運ぶ男性2人の描写あり (東博本は米俵が置かれるのみ)。家屋内部の装飾、玄関の描写に東博本と相違あり。屋根に岩の描写なし。
第34紙 38.3cm	29	ウ子ヲ塩製したる図 (塩製になしたる図)	○	×	8-6	場面31の絵の下に描写。
	30	タケリ (海狗腎)	○	×	8-7	場面30の絵の上に小さく描写。
第35紙 15.7cm	31	オ、子ツブの図 (ヲ、子ツブ図)	○	○	8-9	第35紙左上に鉛筆で「大 (七カ)」とあり。
第36紙 6.4cm	32	マチコル (マチコル図・マチコル説)	○	○	3-2、3-3	第36紙右上に鉛筆で「七」「s」 (※「七」は見せ消ち) とあり。
第37紙 38.4cm						
第38紙 38.4cm	33	愛瀾詩之婦女若蠢斯不妬忌感慨作歌并短歌	×	○	×	東博本にない詞書 (長歌と短歌)。「早坂文嶺」の署名あり。
第39紙 25.7cm	34	アツシ織てい、熊に乳をのますてい	○	×	×	東博本にない絵。「アツシ織」は東博本4-7「アドシカル図」に絵あり。
第40紙 10.2cm	35	イヨマンテ又イヨマンテ (熊祭踊図)	○	○	6-2	アイヌ有力者は陣羽織着用。衣服を着用した子どもの描写あり。第41紙左上に鉛筆で「八」とあり。
第41紙 38.4cm						
第42紙 38.1cm	36	(熊祭花矢射図)	○	○	6-3	第42紙右上に鉛筆で「八」とあり。衣服を着用した子どもの描写あり。地面に落ちた矢の描写あり (東博本はクマに矢が刺さっている)。
第43紙 2.8cm						
第44紙 19.1cm	37	(熊祭挾殺図)	○	○	6-4	子ども2人のうち1人は衣服着用。クマを押さえつける人数は7人 (東博本は10人)。
第45紙 38.2cm						
第46紙 38.2cm	38	ヌシャサンカタ (熊祭神酒飲図)	○	○	6-5	祭壇に着物の描写あり。アイヌ有力者は陣羽織着用。クマに木幣と銀器の描写あり。
	39	(熊祭酒宴図)	○	○	6-6	画面右下に調理・餅搗きの絵あり (東博本と絵が異なる。※本稿ではこの右下の絵を (熊祭酒宴図) の一部と解釈した)。
第47紙 24.9cm		年記・印章				「安政四年さつきのふたつある歳」の年記と「画」の文字に「蝦夷之印」の押印あり。
奥付 6.4cm						奥付の法量は軸を含む。

摘 要

【体裁の特徴】
 ・本資料で使われている本紙の料紙は、基本的に縦27×横38cm前後の薄美濃紙を貼り合わせた継紙である。料紙をまたいで描写している場面が多数見られることから、ある程度の長さの継紙に絵と詞書を直接描写し、それを巻子に仕立てたものである。
 ・所々の料紙の左上または右上に鉛筆書きの漢数字 (「一」から「八」まで) が見られる。これは巻子に仕立てる際 (改装時か) の貼り合わせの識別記号と考えられる。
 ・虫損痕はほとんど見られない。

【内容の特徴】
 ・絵を含む場面は36である。
 ・調査番号1の『蝦夷島奇観』写本と同様、楳丸が『蝦夷島奇観』を作製したころには一般的ではない (幕末期の) 風俗描写が絵の中に見られる。
 ・東博本には見られない本資料独自の絵や詞書等が見られる。
 ・詞書は東博本、あるいはその一部を借用したものもあるが、多くは東博本とは一致しない別物である (本資料オリジナルの詞書が多い)。したがって、『蝦夷島奇観』模写本とは懸隔した作品であり、「蝦夷島奇観」の名と絵の構図及び詞書の一部を仮託した別作品とも言える。

【関係文献】
 ・北海道開拓記念館編『妻沼コレクション資料目録 (一括資料目録第30集)』北海道開拓記念館、1997年
 ・故林昇太郎氏遺作論集刊行会編『アイヌ絵とその周辺—林昇太郎美術史論集—』故林昇太郎氏遺作論集刊行会、2010年
 ・山際晶子「早坂文嶺筆『蝦夷島奇観』写本について」『北海道開拓記念館研究紀要』第41号、2013年 ※本資料の考察と図版・釈文が掲載されている。上記摘要の一部は本文を参考に記した。

資料名	蝦夷島奇観 (近夷地雑図部)	数量	1帖	形態	折本	所蔵	北海道博物館	所蔵番号	126265	調査番号	3
法量	資料外形: (閉) 26.4×20.9cm、(開) 26.1×41.4cm										
註記	紙本着色、帖装 (裏打あり)、12丁、妻沼コレクション										
構成	場面番号と画題					絵	詞書	東博本	備考		
1オ	見返										
2オ	1ウ	1	箱館市中図		○	×	10-2	料紙25.8×41.4cm (継2)。本紙上下に黒ズミあり。			
3オ	2ウ	2	(箱館婦女図)		○	○	10-3	料紙26.1×35.4cm。			
4オ	3ウ	3	(すりかゝる図)		○	○	10-4	料紙26.1×41.4cm (継2)。			
5オ	4ウ	4	(農女図)		○	○	10-10	料紙25.0×41.4cm (継2)。本紙上部に黒ズミあり。絵の下部に切断あり (左の農女の左足親指部が切断されている)。			
6オ	5ウ	5	(モチブ図)		○	○	10-7	料紙26.1×39.1cm (継2)。			
7オ	6ウ	6	(昆布採図)		○	○	10-8	料紙23.9×37.8cm (継2)。本紙上部に黒ズミあり。絵の下部に切断あり (本紙下部の左端を除く大部分が切断されている)。			

8オ	7ウ	7	(昆布図)	○	○	10-9	料紙26.1×35.3cm。
9オ	8ウ	8	(古碑図)	○	○	10-6	料紙26.1×36.5cm。
10オ	9ウ	9	(土壟図)	○	○	10-11	料紙26.1×39.9cm(継2)。 絵の下部に切断あり(土壟の絵の下部が切断されている)。
11オ	10ウ	10	(ホインカル肖像)	○	○	10-12	料紙26.1×36.7cm
12オ	11ウ	11	(古陶器図)	○	○	10-5	料紙26.1×35.8cm
裏見返	12ウ						
摘要	<p>【体裁の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本資料で使われている本紙の料紙は、基本的に縦26×横37cm前後の薄美濃紙、またはそれを貼り合わせた継紙である。 ・料紙をまたいで描写しているものが6つ(場面1、3、4、5、6、9)、一紙に描写しているものが5つ(場面2、7、8、10、11)である。料紙をまたいでいるものは継紙に絵と詞書を直接書いたものである。また一紙に描写したものであっても美濃紙の法量よりも小さいので、元は継紙に書いたものであった可能性がある。 ・本紙縦が展開時法量(26.1cm、本資料の台紙の縦の長さ)より短いものが3つ(場面1、4、6)、横が展開時法量(41.4cm、台紙の横の長さ)より短いものが5つ(場面2、7、8、10、11)ある。これは原形態が折本ではなかったことの暗示である。 ・本紙の縦が26.1cmより短い場面1、場面4、場面6には、本紙の上部、下部に黒ズミがある。黒ズミはスリ、または糊痕の可能性がある。黒ズミは天・地部分にしか発生していないことから、絵どうしのスリの可能性は低い。ほかの8場面に黒ズミが見られないのは、折帖に仕立てる際に縦26.1cmよりはみ出た部分を本紙ごと切断したためと考えられる。場面4の(農女図)の親指や、場面9の(土壟図)に不自然な切断が見られるのは、そのためであると考えられる。 ・料紙の大きいものに合わせて本紙を台紙(裏打紙)に貼付し、展開時の法量が26.1×41.4cmになるようにはみ出た部分を切断し、折帖に仕立てた可能性が高い。 <p>【内容の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木皮衣の襟、袖口、裾、文纏などの青色系の発色が鮮やかである(場面2、4、10)。 ・絵の構図は東博本と類似している。詞書は東博本と完全には一致しないが類似している。 ・順番は東博本「十 雑図部」と若干異なるが、『蝦夷島奇観』の模写本と言って差し支えないものである。 <p>【関係文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道開拓記念館編『妻沼コレクション資料目録(一括資料目録第30集)』北海道開拓記念館、1997年 						

資料名	蝦夷島奇観(天・地・人)		数量	3帖	形態	折本	所蔵	北海道大学附属図書館	所蔵番号	北方資料 図類76	調査 番号	4
法量	(資料外形) 天: 26.0×16.7×1.3cm、地: 26.0×16.7×1.6cm、人: 26.0×16.7×1.3cm											
註記	3帖とも紙本著色、表紙・裏表紙あり、表紙にラベル3点貼付(①丸に「蝦」、②所蔵館の整理ラベル「76/図類」、③第一文庫のラベル) <丁数> 天: 15丁、地: 20丁、人: 16丁 <表紙題箋> 天: 「蝦夷島奇観 天」、地: 「蝦夷島奇観 地」、人: 「蝦夷島奇観 人」											
構成	場面番号と画題											
天	1オ	見返	1	(序)(1オ~1ウ)	×	○	1-1	見返に付箋貼付あり、付箋墨書「寛政十二年村上嶋之丞著」。1オに蔵印「開拓使蔵書印」あり。序文に款記なし。				
	2オ	1ウ	2	(女神窟居説・女神窟居図)(2オ~3ウ)	○	○	1-6、1-5	絵と詞書を同一場面に描写。				
	3オ	2ウ	3	クナシリ ^豊 イコリカヤニ肖像 ^{酋長トキイ三男} (男夷図)(3ウ~4ウ)	○	○	1-7	東博本には「クナシリイコリカヤニ肖像」の画題なし。				
	4オ	3ウ	4	(女夷図)(5オ~5ウ)	○	○	1-8	口縁部の入墨の描写が強調。耳金に赤色系の布の描写あり。首飾りの器に薄黒色系の着色(東博本は赤色系)。				
	5オ	4ウ	5	女夷文手之図(女夷文手図・女夷文手説)(6オ~7オ)	○	○	1-10、1-11	絵と詞書を同一場面に描写。袖口の描写なし。				
	6オ	5ウ	6	(シャバウベ図)(7オ~8オ)	○	○	1-9					
	7オ	6ウ	7	(シトキ図)(8ウ~9ウ)	○	○	1-12	器の形に東博本と相違あり。				
	8オ	7ウ	8	(イナホ図)(10オ~10ウ)	○	○	5-4	褐色系と白色系の着色あり。				
	9オ	8ウ	9	(ラッコ図)(11オ~11ウ)	○	○	11-10					
	10オ	9ウ	10	(ランカミ図其二(列座))(12オ~13ウ)	○	○	2-3	左と中央の人物は小袖・陣羽織着用。ゴザの着色が鮮やか。				
	11オ	10ウ	11	(ランカミ図其三(ウリリ))(13ウ~15オ)	○	○	2-4	女性の口縁部入墨の描写が強調。耳金に赤色系の布の描写あり。15オ左の男性は薄緑色系の着物着用。				
	12オ	11ウ	12	(ランカミ図其四(女夷礼))(15ウ)	○	○	2-5	口縁部入墨の描写あり。耳金に赤色系の布の描写あり。腰マキリの描写なし。				
	13オ	12ウ										
	14オ	13ウ										
	15オ	14ウ										
裏見返	15ウ											
地	1オ	見返		(白紙)				1オに「北海道庁図書之印」「開拓使蔵書印」あり。				
	2オ	1ウ	13	近蝦夷地居家図(1ウ~2ウ)	○	○	4-2	ムルクタウシカモイの絵の描写なし。家屋の左に木幣と頭骨の描写なし。				
	3オ	2ウ	14	西夷地居家之図(西夷地居家図)(2ウ~3ウ)	○	○	4-3	木幣の描写なし。外構の枝の描写に東博本と相違あり。				
	4オ	3ウ	15	(家居宝械図)(3ウ~5オ)	○	○	4-4	棚上のゴザの色彩が鮮やか。漆器の数、着色、形等に東博本と相違あり。				
	5オ	4ウ	16	フツアイイカネツツ弓矢鞆図(5オ~6オ)	○	○	5-8	着色、模様等に東博本と相違あり。				
	6オ	5ウ	17	アマリクウ(アマクウ図)(6オ~7ウ)	○	○	7-4	東博本より草の描写が豊富。				
	7オ	6ウ	18	俗式之部婚礼飲酒法製部(婚礼飲酒法製部目録)(8オ)	○	○	3-1	東博本に「俗式之部」という表現は見られない。				
	8オ	7ウ	19	婦造マチコル之図(マチコル図)(8ウ~9オ)	○	×	3-2	右の女性は木皮衣の中に小袖着用。				
	9オ	8ウ	20	(マチコル説)(9ウ~10オ)	×	○	3-3					
	10オ	9ウ										

11才	10ウ	21	(飲酒図) (10ウ~12才)	○	○	3-4	10ウに詞書、11才は白紙、11ウ・12才に絵が描写。絵の人物の着物の着色に東博本と相違あり。
12才	11ウ						
13才	12ウ	22	(タフカリ図) (12ウ~13ウ)	○	○	3-5	衣装の色数が少ない(東博本は絹の小袖や鳥羽衣等種類が豊富で色数が多い)。
14才	13ウ						
15才	14ウ	23	ウカリ稽古図 (13ウ~14ウ)	○	○	3-8	棒で叩かれる人物が背負う毛皮は毛のある方を内側に描写(東博本は逆)。
16才	15ウ	24	(ウカリ真行図) (14ウ~15ウ)	○	○	3-9	笹の葉を水に付ける器が漆器(東博本は蓋付きの木の容器)。
17才	16ウ	25	(ニヨエン図) (15ウ~16ウ)	○	○	3-10	陸の人物の着物の描写が色鮮やか。
18才	17ウ	26	(誠絃図) (16ウ~17ウ)	○	○	3-7	17才に(カ演奏図)(ゴザに赤色系と緑系の着色)、17ウにモヤキナ写生(モセキナ写生)の絵あり。ランヌマニ写生の絵なし。
		27	カ写生 (18才~19才)	○	○	3-6	カの向きが東博本と左右逆。
19才	18ウ	28	(サイモン図) (19才~20才)	○	○	3-11	20才に「北海道庁図書之印」あり。
20才	19ウ						
裏見返	20ウ		(白紙)				
人							
1才	見返	29	脇脇部(オットセイ猟総説) (1才)	×	○	8-1	1才に「開拓使蔵書印」あり。
2才	1ウ		(白紙)				
3才	2ウ	30	(オットセイ猟準備図) (2ウ~3ウ)	○	×	8-2	2ウに「北海道庁図書之印」あり。ゴザに赤色系と黒色系の着色。行器に金箔で蒔絵の描写あり。
4才	3ウ						
5才	4ウ	31	(オットセイ銃突図) (3ウ~4ウ)	○	○	8-3	東博本8-3には詞書なし。突銃は回転式離頭銃として描写(東博本は銃銃)。
6才	5ウ	32	(獲来て会所に出す図) (4ウ~5ウ)	○	○	8-5	下賜品に着物の描写あり(東博本はタバコと米俵のみ)。
		33	塩製となしたる図(塩製になしたる図) (5ウ~6才)	○	×	8-6	オットセイの口の中と腹の裂け目に赤系の着色。東博本より体躯が若干反っている。
7才	6ウ	34	海狗腎 (6ウ~7才)	○	○	8-7	海狗腎に赤系の着色(東博本は茶色系)。形も東博本と相違あり。
8才	7ウ	35	(オットセイ浮睡図) (7才~8才)	○	○	8-8	オットセイは左向きでうつ伏せ(東博本は右向きで横向き)。
9才	8ウ	36	ヲ、子ツフ之図(ヲ、子ツフ図) (8才~9才)	○	○	8-9	東博本より口の中の赤系の着色が鮮やか。
10才	9ウ	37	(本草綱目からの引用) (9ウ)	×	○	8-10	
11才	10ウ	38	(熊祭踊図) (10才~11ウ)	○	○	6-2	東博本より衣装の彩度が高い。アイヌ有力者は陣羽織着用。クマ檻の上に岩(青緑色系と黒系の着色)の描写あり。衣服を着用した子ども2人が描写(裸の子どもの描写なし)。
12才	11ウ						
13才	12ウ	39	(熊祭花矢射図) (11ウ~12ウ)	○	○	6-3	東博本より衣装の彩度が高い。アイヌ有力者は陣羽織着用。子どもは衣服着用(裸の描写なし)。クマの周囲に地面に落ちた矢の描写あり。
14才	13ウ	40	(熊祭挾殺図) (12ウ~13ウ)	○	○	6-4	東博本より衣装の彩度が高い。子どもは衣服着用(裸の子どもの描写なし)。クマの口周辺に血の描写あり。
15才	14ウ	41	(熊祭神酒飲図) (14才~15才)	○	○	6-5	東博本より衣装などの彩度が高い。アイヌ有力者は陣羽織着用。祭壇に着物の描写あり。漆器の蒔絵文様に金箔使用。
		42	(熊祭酒宴図) (15才~16才)	○	○	6-6	東博本より衣装などの彩度が高い。アイヌ有力者は陣羽織着用。
裏見返	16ウ						16ウに「北海道庁図書之印」あり。
摘 要	<p>【体裁の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料紙をまたいで絵を描写しているものが多数ある。したがって、絵は継紙に描かれたものと考えられる。 ・折本の折り目で絵が切れているものが多数ある。ただし、詞書が折り目で切れているものはない。したがって、絵は折本に仕立てる前の継紙時に描かれ、折本に仕立てられてから(折本の折り目が付いてから)詞書を記入したのと考えられる。 ・文字記入部分には板本の匡郭風の線が上に薄く引かれている。これは文字を加筆する際にズレないように引いた線の痕と考えられる。 ・紙は一般的な板本の紙に比べるとやや厚手の紙を使用している。 <p>【内容の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵の細部の描写や詞書の言い回しに東博本と相違は見られるが、絵の構図や詞書は東博本に類似している。 ・全体にわたって鉛筆及び朱筆による文字の書き込み(訂正・補足等)あり。 ・本資料の木皮衣の刺繍や袖口等の文様は東博本と異なり、青色系の発色は鮮やかである。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『日本北辺関係日記録』(北海道大学附属図書館 1990:242)には、「寛政一〇年以来蝦夷地の地理・風俗・産物などを調査した幕吏村上島之允が、アイヌ民族の風俗習慣を後世に伝えるために残した有名な画集。但しこの写本は明治初年アイヌ絵画家平沢屏山が開拓使の求めて模写した美麗な写しであるが、東博自筆本と比較すると第九写生部-第一二唐太郎、附録三邑図を欠き、他にも配列順序や文章に違いあり。」とある。 ・1932(昭和7)年に作成された『北海道庁所蔵旧日記録』(北海道庁 1932:82)には、「写本 折本 三冊」の資料として「寛政十二年幕吏秦徳丸の著作にして、蝦夷の風俗、産物を描きて説明を附したるもの。△秦徳丸は村上島之丞の号なり。伊勢人。松平定信に擢られて幕吏となり、寛政の交(ママ)蝦夷地の事に従ひし人なり。図は箱館の画家平沢屏山の筆なるべし。」とある。また、「旧記二三棚四八七号」との記載は、北大所蔵本の「第一文庫」ラベルの記載と一致することから、1932(昭和7)年の目録作成段階では北海道庁所蔵であったことは確実であり、この段階で本資料を平沢屏山筆とする情報が受け継がれている。 						

資料名	夷地探見記	数量	2冊	形態	冊子本	所蔵	北海道大学附属図書館	所蔵番号	北方資料旧記22	調査番号	5
法量	上巻: 28.8×19.9cm、下巻: 28.6×19.7cm										
註記	紙本着色、冊子装、表紙・裏表紙あり、表紙に題箋あり(上巻「夷地探見記 上」、下巻「夷地探見記 下」)。絵が描写されるオモテ丁の右下には、全丁にわたって北海道大学帝国大学の蔵書印がある。 (丁数) 上巻: 29丁、下巻: 31丁										
構成	場面番号と画題		絵		詞書	東博本	備考				
上巻											

1オ	見返		(外題)				見返に北海道帝国大学附属図書館のラベル貼付。1オに外題あり「夷地探見記 上」。
	1ウ		(白紙)				北海道帝国大学附属図書館の蔵書印2種あり。
2オ		1	ラシヤマンへ地図 (ラシヤマンベ説)	×	○	7-7	詞書に「天明二年壬寅六月」の年記あり。 ※絵は2ウ・3オにあり。
3オ	2ウ	2	ラシヤマンへ地図	○	×	7-7	詞書は2オにあり。 人物の描写は3人 (東博本は4人)。
4オ	3ウ		(白紙)				
5オ	4ウ	3	^{ヘロキコイキ} 鯉 漁 図	○	×	7-2	網の描写に東博本と相違あり。画面中央やや右の早切に掛けてあるツナギツラは2連 (東博本は4連)。画面左にツナギツラの描写なし。
6オ	5ウ		(白紙)				
7オ	6ウ	4	ヘロキ写生	○	○	7-3	ヘロキに薄青色系と褐色系の着色。
8オ	7ウ		(白紙)				
9オ	8ウ	5	(箱館婦女図)	○	○	10-3	
10オ	9ウ		(白紙)				
11オ	10ウ	6	採昆布図 (昆布採図)	○	○	10-8	海上部分に薄青色の着色。着物の着色に東博本と相違あり。
12オ	11ウ		(白紙)				
13オ	12ウ	7	(昆布図)	○	○	10-9	
14オ	13ウ		(白紙)				
15オ	14ウ	8	(農女図)	○	○	10-10	画面右の女性が持つ鎌の刃先に青色系の着色。画面左の女性の衣着に文様描写あり。また緑色系の帯の描写あり。
16オ	15ウ		(白紙)				
17オ	16ウ	9	(衝鮭図)	○	○	7-6	男性の背中に文様描写なし。鉤鉾の描写なし。向こう岸に木の描写あり。川原に岩の描写あり。
18オ	17ウ		(白紙)				
19オ	18ウ	10	(捕鷺図)	○	○	7-5	東博本の引鉤は槍として描写されている。
20オ	19ウ		(白紙)				
21オ	20ウ	11	アマグウ図	○	○	7-4	
22オ	21ウ	12	(オットセイ猟総説)	×	○	8-1	22オ・22ウに詞書、21ウ及び23オは白紙。
23オ	22ウ						
24オ	23ウ	13	(熊祭花矢射図)	○	○	6-3	矢を射る裸の子どもの描写なし。アイヌ有力者の下着の小袖に白色系 (地)、赤色・薄青色系 (模様) の着色。画面左のイヌ皮着用の子どもは縄を持つ男性の左に描かれ、弓矢を持っていない。画面右の母親に抱かれた裸の子どもは矢を持っていない。
25オ	24ウ		(白紙)				
26オ	25ウ	14	(熊祭挾殺図)	○	○	6-4	クマは口を閉じている。クマを挟む左から2番目の男性に赤色系の着物の描写なし。画面左に女性と裸の子どもの描写なし。
	26ウ		(白紙)				
27オ		15	(熊祭神酒飲図詞書)	×	○	6-5	※絵は28ウ・29オに描写。
28オ	27ウ		(白紙)				
29オ	28ウ	16	(熊祭神酒飲図)	○	×	6-5	祭壇の正面に褐色系の着色、左右と床のゴザに緑色系の着色。画面右端にイヌ皮を着た子どもの描写あり (東博本はイヌが描写)。漆塗りの箱の模様に赤色系の着色 (東博本は金箔)。祭壇の前に座る人数は5人 (東博本は10人)。
裏見返	29ウ		(白紙)				
下巻							
1オ	見返						見返に北海道帝国大学附属図書館のラベル貼付。1オに外題あり「夷地探見記 下」。
2オ	1ウ		(白紙)				1ウに北海道帝国大学附属図書館の蔵書印2種あり。2オ白紙。
3オ	2ウ	17	近蝦夷地居家図	○	○	4-2	2ウ~3オに絵。2ウ~3ウに詞書。4オは白紙。木の描写なし。家や蔵の外壁に緑色系の着色。入口や窓に薄茶色系の着色。ムルクタウンシカモイの手前に蕪の描写あり。画面左下に白・杵・人物の描写なし。
4オ	3ウ						
5オ	4ウ	18	西夷地居家図	○	○	4-3	木幣に薄茶色系の着色。家の外壁と玄関のゴザは緑、玄関内部の壁は薄茶色系の着色。クマ檻床に緑色系の着色。クマ檻上の岩の描写なし。
6オ	5ウ		(白紙)				
7オ	6ウ	19	(家器宝械図)	○	○	4-4	漆器などの着色に東博本と相違あり。
8オ	7ウ		(白紙)				
9オ	8ウ	20	(ニカップを剥図)	○	○	4-6	
10オ	9ウ		(白紙)				
11オ	10ウ	21	ニカーツブ写生 (ニカップ枝葉写生)	○	○	4-8	
12オ	11ウ		(白紙)				
13オ	12ウ	22	アツドシカル図	○	○	4-7	家と裸の子どもの描写なし。
14オ	13ウ		(白紙)				
15オ	14ウ	23	女兒 衣服 文造 カナケ チミノツブ アヤシノカル図	○	○	4-9	
16オ	15ウ		(白紙)				

17才	16ウ	24	ヘラシトミカモイ図	○	○	5-2	高床蔵と木の描写なし。
18才	17ウ	25	(イナホ説)	×	○	5-4	17ウ白紙。18才詞書。※絵は18ウ・19才に描写。
19才	18ウ	26	イナホ (イナホ図)	○	×	5-4	白色系と薄茶色系の着色。※詞書は18才に記載。
20才	19ウ		(白紙)				
21才	20ウ	27	ボロチア 大舟図	○	○	5-9	船の描写のみ (陸・海の描写なし)。船底板の板目の描写なし。板に陰影の着色。
22才	21ウ		(白紙)				
23才	22ウ	28	舟図	○	○	5-10	船の描写のみ (陸・海の描写なし)。船底板の板目の描写なし。板に陰影の着色。
24才	23ウ		(白紙)				
25才	24ウ	29	船具図 (舟具図)	○	×	5-11	帆に緑色系、その他の木に薄赤色系の着色。画面左下の船に「走舟」と墨書 (東博本は「懸帆舟」)。
26才	25ウ		(白紙)				
27才	26ウ	30	クワアイカエツツ 弓矢鞆 図	○	○	5-8	矢筒に薄赤色系と濃茶色系の着色。
28才	27ウ	31	(アヨツベ)	○	×	5-6	詞書は29才に記載。
29才	28ウ	32	(アヨツベ説)	×	○	5-6	絵は28才に描写。
30才	29ウ		(白紙)				
31才	30ウ	33	チヤシ図	○	○	5-7	
裏見返	31ウ		(白紙)				
摘 要	<p>【体裁の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の場面との間に白紙丁が挿入されている。 ・2枚重ねて1丁に装幀されている。 <p>【内容の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵は東博本とほぼ同じ構図で描かれており、よく似た絵に仕上がっているが、東博本と比べると簡便であり、細密度において劣る。 ・東博本と比べ、詞書に大きな相違点はない。 ・東博本またはその前段階の『蝦夷島奇観』の一部を比較的忠実に模写したものと推測される。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『日本北辺関係日記目録』(北海道大学附属図書館 1990:242)には、「内容は「蝦夷島奇観」の抜萃精写本。上巻には漁獵部地区部・雑部・熊祭部を、また下巻には居家部と器械部を含む。装訂、用紙とも山田聯自筆本「北裔備攷」と同じで筆蹟も似ているので、山田聯の筆写本か。」とある。 						

資料名	蝦夷島奇観	数量	3巻	形態	卷子本	所蔵	北海道大学附属図書館	所蔵番号	北方資料 軸物173~175	調査番号	6	
法量	<p>【軸物173：天】本紙：約28.5×438cm、巻径4.4cm、軸長29.0cm、軸径1.8cm 【軸物174：地】本紙：約28.5×678cm、巻径5.0cm、軸長29.0cm、軸径1.8cm 【軸物175：人】本紙：約28.5×602cm、巻径5.0cm、軸長29.0cm、軸径1.8cm</p>											
註記	木箱入、箱の法量：32.4×19.0×7.8cm、紙本着色、卷子装 (裏打あり)。											
構成	場面番号と画題											
天 (軸物173)	見返 19.5cm											
第1紙 131.7cm	1	(序)			×	○	1-1	冒頭に「蝦夷島奇観」とあり。年記、署名なし。				
	2	(女神窟居説・女神窟居図)			○	○	1-6、1-5	女神の着物に青色系の着色。漆器に金箔なし。				
	3	(男夷図)			○	○	1-7	「クナシリ <small>クナシリ</small> イコリカヤニ <small>イコリカヤニ</small> 肖像 <small>肖像</small> イ」の文言あり。木皮衣に黄色・濃青色系の着色。刀鞘に赤色系の着色。				
第2紙 132.2cm	4	(女夷図)			○	○	1-8	唇に青色系の着色。首飾りの玉に青緑系、器に濃青色系の着色。木皮衣に黄色・濃青色系の着色。				
	5	女夷文手之図 (女夷文手図・女夷文手説)			○	○	1-10、1-11	文手の色に青色系の着色。袖口の描写なし。				
	6	シャバウベの図 (シャバウベ図)			○	○	1-9					
第3紙 131.3cm	7	(シトキ図)			○	○	1-12	器の彫漆の文様に黄色系の着色。大玉の色と形に東博本と相違あり (色は赤色系、東博本は青色系)。				
	8	(イナホ図)			○	○	5-4	白色・薄茶色系の着色。				
	9	(ラッコ図)			○	○	11-10	毛に黒色系の着色。				
第4紙 42.7cm	10	礼讓之図 (ヲンカミ図其二 (列座))			○	○	2-3	左の人物は青色・薄黒色系の小袖と赤色系の花柄の上着着用。中央と右の人物は木皮衣着用 (黄色・濃青色系)。				
	11	(ヲンカミ図其三 (ウリリ))			○	○	2-4	黄色・濃青色系の木皮衣着用。腰マキリの描写なし。				
地 (軸物174)	12	(ヲンカミ図其四 (女夷礼))			○	○	2-5	黄色・濃青色系の木皮衣着用。腰マキリの描写なし。黒色系の下着着用。				
	見返	19.3cm										
	第1紙 132.0cm	13	近蝦夷地居家之図			○	○	4-2	「ムルクタウシカモイ」「蔵(ブ)」の文字なし (絵はあり)。家の玄関後方に柵の描写あり (木幣と頭骨の描写なし)。人物は黄色・濃青色系の木皮衣着用。			
		14	西夷地居家之図			○	○	4-3	家右側の木と木幣の描写なし。厠とクマ檻の詞書なし。クマは右向きに描写。			
	第2紙 131.9cm	15	(家器宝械図)			○	○	4-4	太刀の鞘に赤色系の着色。漆器の描写位置に東博本と相違あり。漆器の文様の描写なし。ラツチャクに火の描写なし。中央手前の木の器の色と形に東博本と相違あり。中央手前に小刀の描写なし。			
16		クワアイカエツツ 弓矢鞆 之図			○	○	5-8	画面左の枝葉の詞書に若干の相違あり (「ラルマニ写生」の語はなく「夷名ウルマ」とある)。				
17		アマハウ (アマグウ図)			○	○	7-4	キツネに薄茶色・白色系の着色。				

第3紙 132.2cm	18	婦造 マチコル之図 (マチコル図・マチコル説)	○	○	3-2、3-3	黄色・濃青色系の木皮衣着用。絵と詞書の間に目録「俗式之部 婚礼飲酒法製之部」の記述あり。
	19	(飲酒図)	○	○	3-4	黄色・濃青色系の木皮衣着用。行器に赤色系の着色なし。台盃に黒色系の着色なし。
第4紙 108.8cm	20	(タフカリ図)	○	○	3-5	人物の着物に東博本と相違あり。木皮衣は黄色・濃青色系の着色。
	21	ウカリ稽古図	○	○	3-8	黄色・濃青色系の木皮衣着用。こん棒で叩かれる男が背負う毛皮に東博本と相違あり(裏表逆)。
	22	(ウカリ真行図)	○	○	3-9	黄色・濃青色系の木皮衣着用。笹の葉を水に付ける器が漆器(東博本は蓋付きの木の容器)。
第5紙 131.3cm	23	(ニヨエン図)	○	○	3-10	黄色・濃青色系の木皮衣着用。太刀の鞘に赤色系の着色。
	24	力を鼓するの図(鼓絃図)	○	○	3-7	黄色・濃青色系の木皮衣着用。「眉木(ランヌマ)」及び「モセキナの生写の図」あり(葉の形は東博本と相違あり)。
	25	カ写生之図	○	×	3-6	東博本と同じ構図の描写。薄茶色系の着色。
第6紙 20.5cm	26	(サイモン図)	○	○	3-11	黄色・濃青色系の木皮衣着用。鍋からあがる湯気を強調。鍋の把手の向きに東博本と相違あり。
人(軸物175)						
見返 19.7cm						
第1紙 131.5cm	27	臙膈之説(オットセイ獺総説)	×	○	8-1	冒頭に「臙膈之説」と墨書(東博本にはない)。
	28	(オットセイ獺準備図)	○	×	8-2	黄色・濃青色系の木皮衣着用。家の右の小枝に頭骨の描写なし。木幣削りの左に木幣2本の描写なし。家の窓から出す長い棒の左先に鎌の描写あり。
	29	(オットセイ鋸突図)	○	○	8-3	突鋸は回転式離頭鋸として描写(東博本は鉤鋸)。船上左の人物の顔が後ろ向き(東博本は前向き)。
第2紙 131.8cm	30	(獲来て会所に出す図)	○	○	8-5	黄色・濃青色系の木皮衣着用。オットセイ検分役人の羽織の着色に東博本と相違あり。会所の障子紙の目の描写なし。会所内襖の描写なし。会所玄関の戸は開口。
	31	臙膈獸醃製之図(塩製になしたる図)	○	○	8-6	オットセイの腹の裂け目に薄赤色系の着色。
	32	海狗腎 <small>クダテ</small>	○	○	8-7	薄赤色系の着色。鞆丸の形に東博本と相違あり。
	33	(オットセイ浮睡図)	○	○	8-8	海上の鳥の向きと羽の着色に東博本と相違あり。
第3紙 117.6cm	34	ヲ、子ツツの図	○	○	8-9	腹部に毛の描写なし。
	35	(本草綱目からの引用)	×	○	8-10	
	36	(熊祭踊図)	○	○	6-2	黄色・濃青色系の木皮衣着用。画面右下の行器に赤の着色なし(蓋閉)。片口は左向き。クマ檻右のアイヌ有力者は上着に白色系の袖なしを着用。クマ檻左の人物のみ白色地に濃青色系の着物着用。画面左端に裸の子どもの描写あり。
第4紙 131.9cm	37	(熊祭花矢射図)	○	○	6-3	黄色・濃青色系の木皮衣着用(一部白地に濃青色系の着物)。画面手前の子どもは木皮衣着用(東博本は裸)。クマの右上に裸の子どもの描写あり。クマの左上の子どもは白色系の着物着用(東博本はアイヌ皮衣)。クマに刺さっている矢は2本(東博本は3本)。画面右上のアイヌ有力者は木皮衣に白色系の袖なしを着用。
	38	(熊祭挾殺図)	○	○	6-4	クマを挟む大木は3本(東博本は2本)。子ども以外は全員黄色・濃青色系の木皮衣着用(アイヌ有力者の赤色系の布地の描写なし)。画面手前の男性が手に持つ太刀の鞘に赤色系の着色。画面中央奥に裸の子どもの描写あり。
	39	(熊祭神酒飲図)	○	○	6-5	太刀鞘に赤色系の着色。ゴザは側面も床も薄茶色系の着色。木幣の形は傘型。画面右下に漆器をもつ男性2人の描写あり(東博本は裸の子ども)。人物は黄色・濃青色系の木皮衣着用(中央の人物のみ白地に赤色系の花柄の小袖、その2つ右隣の人物は白地の着物着用)。
第5紙 68.0cm	40	(熊祭酒宴図)	○	○	6-6	アイヌの着物は黄色・濃青色系の木皮衣で、上段左から3番目の男性のみ白地上着用。画面右端の人物は1名で白地の着物着用(東博本は大人2人と裸の子ども1人)。画面右下の漆器は行器3つ(東博本は行器2つと台盃1つ)。酒宴ゴザ上の漆器は足なしの行器(巴文の描写あり)。
摘要	<p>【体裁の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 裏打紙は厚手の紙を使用。 料紙の横の法量は概ね130cm前後であるため、比較的新しい(近代以降の)写本と推定される。 <p>【内容の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東博本の描写と比べると絵は簡便であり、細密度において劣る。 東博本と比べ、詞書に大きな相違点はない。 東博本またはその前段階の『蝦夷島奇観』の一部を比較的中実に模写したものと推測される。 					

資料名	蝦夷島奇観	数量	2巻	形態	卷子本	所蔵	北海道大学附属図書館	所蔵番号	北方資料 軸物181	調査番号	7
法量	第1巻【軸物181-1:〔地〕】本紙縦26.1cm、縦(裏打紙縦)29.2cm、巻径5.0cm、軸長30.0cm、軸径1.8cm 第2巻【軸物181-2:〔人〕】本紙縦26.1cm、縦(裏打紙縦)29.0cm、巻径5.3cm、軸長30.0cm、軸径1.8cm										
註記	紙本墨書、卷子装(裏打あり)。1858(安政5)年クナシリ陣屋において志和嘉左衛門写。										
構成	場面番号と画題			絵	詞書	東博本	備考				

第1巻：軸物181-1 (地)							
見返等	59.8cm					※見返等：八双、見返、見返から第1紙までの余白	
第1紙	38.2cm	1	近蝦夷地居家図	○	○	4-2	「ムルクタウシカモイ」「蔵(フ)」の文言なし。「ムルクタウシカモイ」の絵は2本の木幣。「蔵」に入口の描写なし。家左の木幣が扉のように描写(頭骨の描写なし)。
第2紙	38.8cm	2	西蝦夷地居家之図	○	○	4-3	家の右側に木の描写なし。家の左側にクマ檻の描写なし。
第3紙	39.0cm	3	蝦夷家の内の図(家器宝械図)	○	○	4-4	各器物の描写位置に東博本と相違あり。炉に木幣の描写なし。
第4紙	28.9cm	4	弓矢鞆図	○	○	5-8	「ラルマニ写生」の絵と詞書なし。
第5紙	38.4cm	5	アマブ亦アマクウ(アマグウ図)	○	○	7-4	第5紙と第6紙の継ぎ目にズレあり。木上部の枝葉の描写なし。
第6紙	38.8cm						
第7紙	38.9cm	6	婦造 マチコル之図(マチコル図・マチコル説)	○	○	3-2、3-3	灯明皿の貝に火の描写なし。着物に文様の描写なし。
第8紙	38.9cm						
第9紙	38.9cm	7	(飲酒図)	○	○	3-4	着物に文様の描写なし。
第10紙	38.8cm	8	(タフカリ図)	○	○	3-5	全員が文様の描写のない同じ着物を着用。画面左にゴザ・行器・台盃の描写なし。
第11紙	38.9cm	9	ウカリ稽古の図	○	○	3-8	着物に文様の描写なし。こん棒で叩かれる男性の背の毛皮は毛のない方を外側にして描写。
第12紙	38.8cm	10	(ウカリ真行図)	○	○	3-9	着物に文様の描写なし。
第13紙	20.5cm	11	(ニエヨシ図)	○	○	3-10	着物に文様の描写なし。海上の船は1隻のみ描写。
第14紙	38.5cm						
第15紙	38.7cm	12	(鼓絃図)	○	○	3-7	「ランヌマニ写生」「モセキナ写生」の絵なし。
第16紙	38.7cm	13	(サイモン図)	○	○	3-11	鍋の湯気の描写なし。
		14	(奥書)	×	○		「安政五戊午年四月蝦夷地クナシリ於御陣屋写画之／三澤下総殿御預／足軽／志和嘉左衛門／画工」と墨書。
第17紙	12.9cm		(白紙)				
奥付	78.5cm						※奥付の分量は軸を含む。
第2巻：軸物181-2 (人)							
見返	59.5cm						
第1紙	38.1cm	15	(ラッコ図)	○	○	11-10	料紙右上に印2つあり(「北海道帝国大学図書之印」と蔵書印「5822」)。料紙右側切断。メインの詞書なし。
第2紙	38.8cm	16	(ヲンカミ図其二(列座))	○	○	2-3	中央と右の人物は同じ着物を着用。左の人物の着物は小袖と袖なしであるが、柄の描写なし。
第3紙	38.8cm	17	(ヲンカミ図其三(ウリリ))	○	○	2-4	着物に文様の描写なし。
第4紙	38.7cm	18	(ヲンカミ図其四(女夷礼))	○	○	2-5	腰マキリの描写なし。
第5紙	38.9cm	19	^{ラットセイ} 臙肭臍之部(オットセイ獺総説)	×	○	8-1	「臙肭臍之部」の表題あり(東博本に表題なし)。
		20	(オットセイ獺準備図)	○	○	8-2	家の右側に小枝・頭骨の描写なし。家手前の木幣を削る人物は1名(東博本は2名)。家手前のゴザ・行器・台盃の描写なし。突銃の先端の形が鏃。
第6紙	38.7cm	21	(オットセイ銃突図)	○	○	8-3	突銃の先端の形が鏃。船上の左の人物の顔は後ろ向きに描写。右腕の描写あり。
第7紙	38.9cm	22	(獲来て会所に出す図)	○	○	8-5	米俵は2つ。着物に文様の描写なし。会所の玄関が開く。会所屋根の石の描写なし。会所内部の襖はすべて格子状に描写(東博本は花柄)。
第8紙	38.8cm	23	(オットセイ浮睡図)	○	○	8-8	上段の水鳥は左向きに2羽、下段は右向きに1羽。
第9紙	38.8cm	24	塩製となしたる図	○	○	8-6	
		25	海狗腎	○	○	8-7	陰囊の形に東博本と相違あり。
第10紙	38.2cm	26	ヲ、子ツブの図	○	○	8-9	腹部の描写に東博本と相違あり。
第11紙	38.9cm	27	(熊祭踊図)	○	○	6-2	画面右下の片口の向きが左(東博本は右)。木幣削りの絵の左に立つ女性の手の持ち物は棒(東博本は木幣)。着物に文様の描写なし。クマ檻の奥側に人物描写なし。画面左端に裸の子どもの描写あり。
第12紙	38.9cm						
第13紙	38.7cm	28	(熊祭花矢射図)	○	○	6-3	着物に文様の描写なし。画面手前の子どもは正面やや右向きで衣服着用(東博本は左向きで裸)。クマの右上に裸の子どもの描写あり。クマ左上に子どもの描写なし。クマに矢の描写なし。
第14紙	38.6cm	29	(熊祭挾殺図)	○	○	6-4	着物に文様の描写なし。クマを挟む木は四角い厚板のように描写。木に乗ってクマを挟む人物は12人(東博本は10人)。画面中央に裸の子どもの描写あり。
第15紙	21.3cm	30	(熊祭神酒飲図)	○	○	6-5	着物に文様の描写なし。画面右下に漆器を持つ男性2人の描写あり(東博本は裸の子ども1人)。画面右端にイヌの描写なし。画面右の漆器・太刀を運ぶ人数は3人(大人2人・子ども1人)(東博本は大人3人と子ども1人)。祭壇正面の木幣の形は傘型。
第16紙	38.3cm						
第17紙	38.9cm	31	(熊祭酒宴図)	○	○	6-6	着物に文様の描写なし。画面右のゴザ上には行器3つ(東博本は行器2つと台盃1つ)。画面右の人物は1人(東博本は大人2人と子ども1人)。
第18紙	38.3cm	32	(近蝦夷地居家図詞書の一部)	×	○	4-2	ムルクタウシカモイの詞書「粟稗の糠を家の後に捨る処を……不浄をあやせ八償をとらる」のみ記載。
奥付	82.3cm						※奥付の分量は軸を含む。

摘要	【体裁の特徴】
	・彩色のない墨絵である。
	・料紙の継ぎ目に絵や文字を描いた場面がある。1枚の料紙に各場面を描写したのではなく、継紙に直接絵と詞書を描いたものが多い。
	・ほとんどの場面は料紙の天地端奥が切断されている。卷子装とする際に料紙を切断して台紙に貼付したものと推察される。
【内容の特徴】	
・絵、詞書とも東博本と若干の相違はあるが、全般的によく似ている。オリジナルの改変や付加は見られない。	
【その他】	
・『北海道関係地図・図類目録：北方地域図および日本図等も含む』（北海道大学附属図書館 1981：183）には「軸物181」（番号2346）の説明として「卷子本 1巻」「最初の部分を欠き、順序は天・人・地の順」とある。現在は軸物181-1、軸物181-2として2巻に改装されている。蔵書印が軸物181-2の冒頭にあり、奥書が181-1の末尾にあり、場面32は場面1と関係が深いことからすると、元の体裁は1巻であり、軸物181-2→軸物181-1の順であったと推察される。	

資料名	蝦夷奇観		数量	1冊	形態	冊子本	所蔵	北海道大学附属図書館 北方資料	所蔵番号	旧記48	調査番号	8
法量	26.5×19.3cm											
註記	紙本着色、冊子装、四つ目綴じ、美濃本、49丁。表紙左上に題箋貼付：「蝦夷奇観」、18.6×3.2cm。背表紙に「蝦夷奇観」と墨書。表紙右上に蔵書ラベル「旧記/048」貼付。その左に「蝦」の丸ラベル貼付。											
構成	場面番号と画題		絵	詞書	東博本	備考						
1オ	見返					中央に北海道帝国大学附属図書館の蔵書ラベル貼付。 右上に蔵書印「北海道帝国大学図書之印」、中央下に北海道帝国大学附属図書館の蔵書印あり。 詩・関防印・「雄陵謹言」・印あり。						
2オ	1ウ	1	女兒 衣服 文造 カナ子 チミツブ アヤシノカル図	○	○	4-9						
3オ	2ウ	2	(ベラシトミカモイ)	○	○	5-2	背景描写なし（人物のみ）。木皮衣に文様の描写なし。ベラシトミカモイの下に赤・青色系の着色（東博本は紺地の布）。					
4オ	3ウ	3	(イナホ図)	○	○	5-4	木幣に黄色系の着色あり。					
5オ	4ウ	4	大船図	○	○	5-9	船の飾り等に黄色系の着色。背景描写なし（船のみ）。					
6オ	5ウ	5	舟図	○	○	5-10	舟の所々に黄色系の着色。背景描写なし（船のみ）。					
7オ	6ウ	6	船具図	○	○	5-11	「ウムシュイ」の記載なし。画面左下の船に「走舟」とあり（東博本は「懸帆舟」）。					
8オ	7ウ	7	クワファイカエツツ 弓矢鞆 図	○	○	5-8	矢筒・弓に黄色系・赤色系の着色。					
9オ	8ウ	8	(アヨウヘ図)	○	○	5-6	アザラシ皮の描写が東博本より粗雑。紐などに黄色系の着色。					
10オ	9ウ	9	チャシ図	○	○	5-7	山に薄茶色系の着色。山の数が東博本より多い。					
11オ	10ウ	10	ワシヤマンベ地図	○	○	7-7	アイヌの描写が1人（東博本は2人）。左端の和人の着物の柄が縦縞。山の形に東博本と相違あり。					
12オ	11ウ	11	ヘロキコイキ 鮭漁図 ニシントリ	○	×	7-2	背景描写なし。着物やカズノコ干し簾に黄色系の着色。網やツナギツラの描写数に東博本と相違あり。					
13オ	12ウ	12	ヘロキ写生	○	○	7-3	ヘロキが左向きに描写（東博本は左や上向き）。					
14オ	13ウ	13	(昆布採図)	○	○	10-8	コンブや船の縁などに黄色系の着色。詞書冒頭は「昆布者六月土用より八月十五日まで採れり」とある（東博本は「昆布は東夷地に産す、西夷地絶てなし、六月土用より八月十五日まで採れり」）。					
15オ	14ウ	14	(昆布図)	○	○	10-9	「御上り昆布」の結び紐などに黄色系の着色。					
16オ	15ウ	15	(衝鮭図)	○	○	7-6	川の対岸に山の描写あり。木の描写なし。					
17オ	16ウ	16	(捕鷺図)	○	○	7-5	ワシに薄茶色系の着色（尾羽に黒色系の斑文あり）。ワシ鉤の位置がワシから遠い。その他背景描写に東博本と相違あり。					
18オ	17ウ	17	アマクウ図	○	○	7-4	キツネに白色系の着色、木幣や仕掛け弓に黄色系の着色。					
19オ	18ウ	18	(本草綱目からの引用)	×	○	8-10						
20オ	19ウ	19	(オットセイ猟総説)	×	○	8-1						
21オ	20ウ	20	(オットセイ猟準備図)	○	×	8-2	家の屋根に雪の描写なし。家に緑色・薄茶系の着色。木幣や舟の一部に黄色系の着色。家の右側に小枝や頭骨の描写なし。銃先に鍔風の描写あり。家の外で銃先を持つ人物は1人（東博本は2人）。海の向こうに山の描写あり。					
22オ	21ウ	21	(オットセイ銃突図)	○	×	8-3	銃先の形が鍔（東博本は銃銚）。船上にもう1本銃の描写あり。遠景に山の描写あり。水鳥の向きに東博本と相違あり。着物に文様描写なし。舟の縁に黄色系の着色。					
23オ	22ウ	22	(とり獲て家に帰る図)	○	×	8-4	着物に文様の描写なし。舟の描写なし。家の右に岩の描写あり。先端が鍔の銃2本描写。オットセイの腹部及び家の柱などに黄色系の着色。					
24オ	23ウ	23	(獲来て会所に出す図)	○	○	8-5	家の横に柵の描写あり。手前に外玄関・門の描写あり。着物に文様描写なし。和人の服及び米俵などに黄色系の着色。					
25オ	24ウ	24	ワ、子ツブ図	○	×	8-9	腹部の描写などに東博本と相違あり。					
25オ	25ウ	25	海狗腎	○	○	8-7	海狗腎に薄黒色系の着色。形に東博本と相違あり。					
26オ	25ウ	26	イケマ図	○	○	9-6	形、着色などに東博本と相違あり。					
27オ	26ウ	27	タビドンベコルベ	○	○	9-10	川の描写などに東博本と相違あり。					
28オ	27ウ	28	(トカリ)	○	○	9-4	後右鰭の描写あり。薄黒色・薄黄色系の着色。					

29オ	28ウ	29	イドヒリカ子カツブ図	○	○	9-2	岩の描写なし。顔の向きが左向き（東博本は右向き）。目のまわりに薄赤色の着色。
30オ	29ウ	30	チシユキナ写生	○	○	9-5	花・茎・葉など全体的に東博本より粗雑な描写。
31オ	30ウ	31	(カシケクロクチ)	○	○	9-3	地面の描写なし。「玫瑰花（マウタ）」の花は右端の一部のみ描写。カシケクロクチの着色などに東博本と相違あり。
32オ	31ウ	32	(箱館市中図)	○	×	10-2	全体的に東博本より粗雑な描写。
33オ	32ウ	33	(すりかゝる図)	○	○	10-4	雪山の上部に木の描写なし。頭巾・着物の着色などに東博本と相違あり。
34オ	33ウ	34	(箱館婦女図)	○	○	10-3	着物の着色などに東博本と相違あり。
35オ	34ウ	35	(農女図)	○	○	10-10	着物の着色などに東博本と相違あり。
36オ	35ウ	36	(土桶図)	○	○	10-11	土偶全体に茶色系の着色。
37オ	36ウ	37	(ホインガル肖像)	○	○	10-12	着物の着色、弓の角度などに東博本と相違あり。
38オ	37ウ	38	クン子チロノツブ図	○	○	11-9	鼻・目・爪などに黄色系の着色。尻尾が右向き。
39オ	38ウ	39	(鑑岩図)	○	○	11-3	東博本より全体的に粗雑な描写。
40オ	39ウ	40	(エトロウ島夷図)	○	○	11-4	着物の着色などに東博本と相違あり。
41オ	40ウ	41	(ラッコ図)	○	○	11-10	目・鼻・口に薄赤系、爪に黄色の着色。毛に黒色系の着色。
42オ	41ウ	42	(ケ子トブシ肖像)	○	○	11-11	着物の着色などに東博本と相違あり。
43オ	42ウ	43	(唐太島夷図)	○	○	12-2	詞書の末尾「此島葬祭壇にいたるまで蝦夷島の製と八異なる」の記載なし。絵の着色は東博本と相違あり。
44オ	43ウ	44	熊牙取図	○	×	×	
45オ	44ウ	45	(抜犬之陰囊図)	○	×	×	
46オ	45ウ	46	使犬引舟図	○	×	12-4	陸地の草の描写なし。綱や葎、舟の部分に黄色系の着色。
47オ	46ウ	47	山靱人	○	×	×	
		48	唐太ホ口コタン一名イコンランゲ	○	×	×	
48オ	47ウ	49	唐人島酋長墓	○	×	12-7	屋根の部分のみ描写。薄茶色・黄色系の着色。
49オ	48ウ	50	カラフト女夷墓	○	×	12-8	薄茶色・黄色系の着色。
裏見返	49ウ		附言				関防印あり。附言の記載のあと署名「雙松亭主人蔵」と落款2つあり。
摘 要	<p>【体裁の特徴】 ・全丁に匡郭あり。 【内容の特徴】 ・絵の所々に黄色系の着色が多用されている。 ・絵は東博本より粗雑であり、冊子本の挿絵としてもかなり簡易な描写と言えるものである。 ・詞書は東博本とほぼ同じである。 ・東博本にない場面が4つ収録されている（いずれも「唐太部」に關係するもの）。</p>						

資料名	蝦夷島奇観	数量	1帖	形態	折本	所蔵	北海学園大学北駕文庫 (複写本：北海道大学附属図書館)	所蔵番号	北海道/722 (複写本：北方資料・旧記790)	調査番号	9	
法 量	資料外形：28.5×20.3×4.0cm、本紙：約27.5×39.0cm											
註 記	紙本墨書（一部着色）、表紙左上に題箋貼付「蝦夷島奇観 全」（16.5×3.4cm）、右上に北駕文庫の蔵書ラベル「北海道/722」											
構 成	場面番号と画題											
見返 (1オ)	見返					絵	詞書	東博本	備 考			
2オ	1ウ	1	(序)			×	○	1-1	料紙(2オ・1ウ)の端に「一」と墨書。年記「寛政十二年秋七月」。			
3オ	2ウ	2	(蝦夷諸島図)			○	○	1-3	料紙(3オ・2ウ)の端に「二」と墨書。東博本と地図の天地が逆(北が下)。			
4オ	3ウ	3	(女神窟居説・女神窟居図)			○	○	1-5、1-6	料紙(4オ・3ウ)の端に「三」と墨書。			
5オ	4ウ	4	(男夷図)			○	○	1-7	料紙の端に「四」と墨書。			
6オ	5ウ	5	(シャバウベ図)			○	○	1-9	料紙の端に「五」と墨書。			
7オ	6ウ	6	(女夷図)			○	○	1-8	料紙の端に「六」と墨書。			
8オ	7ウ	7	女夷文手図(女夷文手図・女夷文手説)			○	○	1-10、1-11	料紙の端に「七」と墨書。			
9オ	8ウ	8	(シトキ図)			○	○	1-12	料紙の端に「八」と墨書。			
10オ	9ウ	9	近蝦夷地居家図			○	○	4-2	料紙の端に「九」と墨書。			
11オ	10ウ	10	(家器宝槌図)			○	○	4-4	料紙の端に「十」と墨書。			
12オ	11ウ	11	(ランカミ図(拝礼図))			○	○	2-2	料紙の端に「十一」と墨書。			
13オ	12ウ	12	其二(ランカミ図其二(列座))			○	○	2-3	料紙の端に「十二」と墨書。			
14オ	13ウ	13	其三(ランカミ図其三(ウリリ))			○	○	2-4	料紙の端に「十三」と墨書。			
15オ	14ウ	14	其四(ランカミ図其四(女夷礼))			○	○	2-5	料紙の端及び裏に「十四」と墨書。腰マキリの描写なし。			
16オ	15ウ	15	クワアイカエツブ 蝦夷弓矢 靱 図			○	○	5-8	料紙の端に「十五」「吉」と墨書。			
17オ	16ウ	16	(マチコル説・マチコル図)			○	○	3-2、3-3	料紙の端に「十六」「十六」「二」と墨書。			
18オ	17ウ	17	(エモシ図)			○	○	5-5	料紙の端に「十七」「三」と墨書。			
		18	(附録 見初月図)			○	○	7-13				
19オ	18ウ	19	(大舟図)			○	○	5-9	料紙の端に「十八」「四」と墨書。			
20オ	19ウ	20	(舟図)			○	○	5-10	料紙の端に「十九」「五」と墨書。			
21オ	20ウ	21	(舟具図)			○	○	5-11	料紙の端に「二十」「六」と墨書。			
			(白紙)									
	21ウ	22	モロチキナ			○	○	11-6	料紙の端に「二十一」「七」と墨書。			

22オ		23	テンキ	○	×	11-7	
23オ	22ウ	24	(トモクシ地図)	○	○	7-12	料紙の端に「二十二」「八」と墨書。
24オ	23ウ	25	カシゲクワクチ	○	○	9-3	料紙の端に「二十三」「九」と墨書。
25オ	24ウ	26	(捕鷺図)	○	○	7-5	料紙の端に「二十四」「十」と墨書。
26オ	25ウ	27	(衝鮭図)	○	○	7-6	料紙の端に「二十五」「十一」と墨書。
27オ	26ウ	28	(石刀石劔鐵石図)	○	○	5-12	料紙の端に「二十六」「十二」と墨書。
28オ	27ウ	29	(古陶器図)	○	○	5-13	料紙の端に「二十七」「十三」と墨書。 陶器8点の描写あり(※東博本は3点)。 場面80にも(古陶器図)あり。
29オ	28ウ	30	(アヨウヘ図)	○	○	5-6	料紙の端に「二十八」「十四」と墨書。
	29ウ	31	イコニグル 病衆	○	○	2-6	料紙の端に「二十九」「一」と墨書。
30オ		32	(ヲチュエ図(葬礼))	○	○	2-7	料紙の天に「一」と墨書。
31オ	30ウ	33	(ヲチュエ図其二(家焼却))	○	○	2-8	料紙の端に「三十」「二」、天(31オ)に「二」と墨書。炎に薄茶色系の着色あり。
32オ	31ウ	34	(ヲチュエ図其三(メッカウチ))	○	○	2-9	料紙の端に「三十一」「三」、天(32オ)に「三」と墨書。
	32ウ	35	男夷墓・女夷墓	○	○	2-10	料紙の端に「三十二」「四」と墨書。
33オ		36	西夷地墓	○	×	2-11	料紙の天に「四」と墨書。
	33ウ	37	西夷地居家の図	○	○	4-3	料紙の端に「三十三」「五」と墨書。
34オ		38	アマグウ 置弓(アマグウ図)	○	○	7-4	料紙の天に「七(五カ)」と墨書。
35オ	34ウ	39	(唐太島夷図)	○	○	12-2 ※	料紙の端に「三十四」「六」、天(35オ)に「六」と墨書。 ※「満州衣服」の絵と詞書あり(東博本になし)。
36オ	35ウ	40	(判官岬図)	○	○	12-5	料紙の端に「三十五」、天(36オ)に「七」と墨書。
	36ウ	41	カラフト島酋長の墓	○	×	12-7	料紙の端に「三十六」と墨書。
37オ		42	同女夷墓(カラフト女夷墓)	○	×	12-8	料紙の天に「八」と墨書。
38オ	37ウ	43	(鼓絃図)	○	○	3-7	料紙の端に「三十七」、天(38オ)に「九」と墨書。 力演奏図、ランヌマニ写生図、モセキナ写生図の3つの絵と詞書あり。
	38ウ	44	(トカリ)	○	○	9-4	料紙の端に「三十八」と墨書。
39オ		45	(イケマ図)	○	○	9-6	料紙の天に「十」と墨書。
	39ウ	46	(熊祭踊図)	○	○	6-2	料紙の端に「三十九」「一」と墨書。
40オ		47	(熊祭花矢射図)	○	○	6-3	40オの右下に「一」と墨書。
41オ	40ウ	48	(熊祭挾殺図)	○	○	6-4	料紙の端に「四十」、41オの右下に「二」と墨書。
42オ	41ウ	49	(熊祭神酒飲図)	○	○	6-5	料紙の端に「四十一」、42オの右下に「三」と墨書。 41ウの左、42オの右に匡郭の縦線あり。
43オ	42ウ	50	(熊祭酒宴図)	○	○	6-6	料紙の端に「四十二」、43オの右下に「(四または五)」と墨書。
	43ウ	51	(ヘラシトミカモイ図)	○	○	5-2	料紙の端に「四十三」「一」と墨書。
44オ		52	木皮布織図(アッドシカル図)	○	○	4-7	「ニカツブの葉」の絵あり。
	44ウ	53	(チャシ図)	○	○	5-7	料紙の端に「四十四」「二」と墨書。
45オ		54	ウカリ稽古図	○	○	3-8	料紙(45ウ)の端に「四十五」「三」と墨書。
46オ	45ウ	55	(ウカリ真行図)	○	○	3-9	
	46ウ	56	(アヤシノカル図)	○	○	4-9	料紙の端に「四十六」「四」と墨書。
47オ		57	(エリモ岬)	○	○	7-10	
	47ウ	58	(飲酒図)	○	○	3-4	料紙の端に「四十七」「五」と墨書。
48オ		59	(コリコニ図)	○	○	9-7	
49オ	48ウ	60	ニヨエン	○	○	3-10	料紙の端に「四十八」「六」と墨書。
50オ	49ウ	61	(鑑岩図)	○	○	11-3	料紙の端に「四十九」「七」と墨書。 49ウの左、50オの右に匡郭の縦線あり。
51オ	50ウ	62	チャヘノボリ 祖父獄図	○	○	11-2	料紙の端に「五十」「八」と墨書。 50ウの左、51オの右に匡郭の縦線あり。
	51ウ	63	イドビルカチカツブ図	○	○	9-2	料紙の端に「五十一」と墨書。嘴などに薄茶色系の着色あり。
52オ		64	(エトロー島夷図)	○	○	11-4	※東博本11-5(エブリコ写生)の詞書あり。
	52ウ	65	(ラッコ図)	○	○	11-10	料紙の端に「五十二」「九」と墨書。
53オ		66	(ケ子トブシ肖像)	○	○	11-11	料紙(53ウ)の端に「五十三」「十」と墨書。53ウに薄茶色系の着色あり。
54オ	53ウ		(白紙)				
55オ	54ウ	67	(箱館農説)	×	○	13-4	料紙の端に「五十四」「一」と墨書。
56オ	55ウ	68	寛政十年四月箱館略写図(箱館農地図)	○	×	13-3	料紙の端に「五十五」「第一」と墨書。 55ウの左、56オの右に匡郭の縦線あり。
57オ	56ウ	69	箱館市中図	○	×	10-2	料紙の端に「五十六」「第二」と墨書。 56ウの左、57オの右に匡郭の縦線あり。
	57ウ	70	(箱館婦女図)	○	○	10-3	料紙の端に「五十七」「二」と墨書。
58オ		71	(古碑図)	○	○	10-6	料紙(58ウ)の端に「五十八」「三」と墨書。
59オ	58ウ	72	(モチブ図)	○	○	10-7	

60オ	59ウ	73	(農女図)	○	○	10-10	料紙の端に「五十九」「四」と墨書。
61オ	60ウ	74	(昆布採図)	○	○	10-8	料紙の端に「六十」「五」と墨書。
		75	(昆布図)	○	○	10-9	料紙(61ウ)の端に「六十一」「六」と墨書。 ※61ウは中央に縦棒あり(縦棒の右は場面75の詞書、左は場面76の詞書)。
62オ	61ウ	76	(土桶図・ホインガル肖像の詞書)	○	○	10-11、 10-12	※場面102にホインガル肖像あり。
		62ウ	77	(古鏡図)	○	○	x
63オ	62ウ	78	(イナホ図)	○	○	5-4	
		79	(マキリ図)	○	○	x	
		63ウ	80	(古陶器図)	○	○	5-13
64オ	81	(古陶器図其二)	○	○	5-14	※東博本と詞書に相違あり。	
65オ	64ウ	82	(古陶器図其三 附雷斧)	○	○	5-15	料紙(64ウ)の端に「六十四」「九」と墨書。 陶器3点描写(東博本は2点)。
		83	(ヘロキ写生)	○	○	7-3	ヘロキ2尾描写(東博本は1尾)。
66オ	65ウ	84	(オットセイ猟総説)	x	○	8-1	料紙の端に「六十五」と墨書。 「寛十二年秋七月」の年記あり。
		66ウ	85	(オットセイ猟準備図)	○	○	8-2
67オ	66ウ	86	(オットセイ銚突図)	○	x	8-3	
		87	(オットセイ浮睡図)	○	○	8-8	
68オ	67ウ	88	(とり獲て家に帰る図)	○	x	8-4	料紙の端に「六十七」「ヲ三」と墨書。
		89	(獲来て会所に出す図)	○	○	8-5	
69オ	68ウ	90	ヲ、子ツブ図	○	x	8-9	料紙の端に「六十八」「ヲ四」と墨書。
		69ウ	91	(塩製になしたる図)	○	x	8-6
70オ	92	海狗腎	○	○	8-7		
71オ	70ウ	93	(本草綱目からの引用)	x	○	8-10	料紙の端に「七十」「ヲ六」と墨書。
		71ウ	94	カヤベノホリ図	○	○	7-8
72オ	72ウ	95	エシヤニノホリ図	○	○	7-9	料紙の奥に「ア一」と墨書。
		96	ヘロキコイキ 鯉魚図	○	x	7-2	料紙の端に「七十一下」と墨書。
73オ	73ウ	97	(すりかゝる図)	○	○	10-4	料紙の奥に「ア二」と墨書。
		98	ヲシヤマンヘ地図	○	○	7-7	料紙の端に「七十二」「ア三」と墨書。
74オ	74ウ	99	(ニカッパを剥図)	○	○	4-6	
		100	(ラショア島夷図)	○	○	x	料紙の端に「七十三」「ア四」と墨書。
75オ	101	魯齋亜国人穴居図	○	○	x		
76オ	75ウ	102	ホインガル肖像	○	○	10-12	料紙の端に「七十四」、奥に「ア五」と墨書。
		103	コサ図	○	○	x	料紙の端に「七十五」「ア六」と墨書。
77オ	76ウ	104	フシコイタンキ 古 椀 図	○	○	4-5	
		105	(ケ子トフシ小船図)	○	○	x	料紙の奥に「六終」と墨書。
		77ウ	106	ソイ図	○	○	9-11
78オ	77ウ	107	(シラヌシ地図)	○	x	12-3	
		108	(烏図)	○	○	11-8	
		78ウ	109	黒狐	○	x	11-9
79オ	78ウ	110	タヒドンベコルベ	○	○	9-10	
		79ウ	111	(山靱人図)	○	○	x
80オ	79ウ	112	唐人ホ口タン酋長イコランケ肖像	○	x	x	
		113	(抜犬之陰囊図)	○	○	x	
		81オ	80ウ	114	使犬引舟図	○	x
82オ	81ウ	115	使犬牽鱈図	○	○	x	料紙の端に「八十」「九五」と墨書。
		82ウ	116	(熊牙取図)	○	○	x
83オ	(白紙)						
84オ	83ウ	117	キナホ一図	○	○	9-13	料紙の端に「八十二」「十一」と墨書。
		118	文 竹 シリキトツブ図	○	○	9-9	
85オ	84ウ	119	(チシュキナ写生)	○	○	9-5	料紙の端に「八十三」「十二」と墨書。
		120	ニカッパ枝葉写生	○	○	4-8	
裏見返	裏見返						
摘 要	<p>【体裁の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 折本の見開き(28.2×40.0cm)の中央に料紙1枚(約27.5×39.0cm)を貼付し、仕立てている。 <p>【内容の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵も詞書も墨書である(一部薄茶色系の着色のある箇所がある)。 料紙の主に端に番号が墨書されている。番号は上下にそれぞれ2か所あるのが一般的で、上部の番号は「一」から「八十三」まで通し番号になっている(一部「七十一上」と「七十一下」)。料紙は全部で84紙である。 絵の描き方や文字の書き方は、東博本に比べ粗雑である。しかし絵の描写が簡素なわけではなく細密である。詞書の内容は東博本よりやや詳しい記載となっている。 東博本に収録されていない場面が11ある。 収録場面の下限は1805(文化2)年である(谷澤・佐々木 1982:232)。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 墨書の写本であるが、東博本に匹敵する内容であり、『蝦夷島奇観』の成立を考察するうえできわめて重要な資料であると推測される。 						

資料名	アイヌ画譜		数量	2帖	形態	折本	所蔵	北海道立図書館	所蔵番号	210.088/A/1 210.088/A/2	調査番号	10
法量	上：26.8×20.5cm、下：26.6×19.5cm											
註記	(両帖共通)：紙本著色、折帖仕立て、表紙中央上部に題箋台紙(絹地)貼付あり(題箋なし)。表紙右上に所蔵館の蔵書ラベル貼付。											
構成	場面番号と画題			絵	詞書	東博本	備考					
上巻												
1オ	見返											第1紙：26.8×40.6cm 1オ左上に朱筆「三二〇ノ内」と「尚古」の印、中央下に所蔵館の蔵書印あり。
2オ	1ウ	1	(熊祭踊図)	○	○	6-2						第2紙：26.8×40.6cm 1ウ右上と下に蔵書印あり。
3オ	2ウ	2	(熊祭花矢射図)	○	○	6-3						第3紙：26.8×40.6cm
4オ	3ウ	3	(熊祭挾殺図)	○	○	6-4						第4紙：26.8×40.6cm
5オ	4ウ	4	(熊祭神酒飲図)	○	○	6-5						第5紙：26.8×40.6cm
6オ	5ウ	5	(熊祭酒宴図)	○	○	6-6						第6紙：26.8×40.6cm
裏見返	6ウ											第7紙：26.8×40.6cm 6ウ右下に蔵書印あり。
下巻												
1オ	見返											第1紙：26.7×38.8cm 1オ左上にラベル、朱筆「三二〇」、「尚古」の印あり。
2オ	1ウ	1	唐太部(唐太部目録)	○	○	12-1						第2紙：26.7×38.1cm 2オ中央下に蔵書印あり。 2オ左下(第3紙端)に「三(朱筆)又」とあり。
3オ	2ウ	2	(唐太島夷図)	○	○	12-2						第3紙：26.7×38.2cm 2ウ右上と下に蔵書印あり。 3オ左下(第4紙端)に「(朱筆)タ 四」とあり。
4オ	3ウ	3	シラヌシ地図	○	○	12-3						第4紙：26.7×38.7cm 4オ左下(第5紙端)に「(朱筆)チ(またはテ)五」とあり。
5オ	4ウ	4	使犬引舟図	○	○	12-4						第5紙：26.7×38.5cm 5オ左下(第6紙端)に「六(朱筆)ヲ」とあり。
6オ	5ウ	5	(判官岬図)	○	○	12-5						第6紙：26.7×38.4cm 6オ左下(第7紙端)に「八(朱筆)又」とあり。
7オ	6ウ	6	カゴフト 唐人島酋長墓	○	○	12-6						第7紙：26.7×38.2cm 7オ左下(第8紙端)に「七(朱筆)又」とあり。
8オ	7ウ	7	カラフト イタンキ 椀	○	○	12-7						第8紙：26.7×38.7cm 8オ左下の紙貼付下(第9紙端)に「九(朱筆判読不能：「ヲ」か「ヨ」か?)」とあり。
9オ	8ウ	8	カラフト女夷墓	○	○	12-8						第9紙：26.7×38.3cm 9オ左下に蔵書印ほか1印あり。
裏見返	9ウ											第10紙：26.7×38.8cm
摘要	<p>【体裁の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 見開きで料紙1枚が開くように仕立てている。 料紙の天地端奥を切断し、折帖に仕立てている。ただし、一部粘葉装風に台紙裏側の端と奥を糊付けしている箇所がある。 上下巻で折帖の仕立て方が異なる。上巻は見開きで一つの料紙、一つの場面が現れるように仕立てられているが、料紙は中央で縦に断裂している。下巻は、料紙を貼付した台紙をまず作製し、それに折を入れ、折帖に仕立てている。したがって下巻は、料紙の端が前のオモテ丁の左端部に現れている(東博本と同様の仕立て方)。 上巻の料紙は厚手の美濃紙で、裏打紙も同種の紙である。 <p>【内容の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上巻は東博本「六 熊祭部」の類似本、下巻は東博本「十二 唐太部」と同様秦檜丸の自筆本と考えられる(詳細は本誌227~262頁の拙稿を参照のこと)。 											

資料名	蝦夷島奇観		数量	2冊	形態	折本	所蔵	北海道立図書館	所蔵番号	210.088/E/1 210.088/E/2	調査番号	11
法量	上：30.0×40.0×3.8cm、下：30.0×40.0×3.8cm、料紙法量：概ね27.7×37.7cm(ただし、場面47「病衆」27.7×39.4cm、場面55「(ペラシトミカモ井写生)」49.2×37.3cm(最大値)											
註記	(両帖共通)：紙本著色、表紙中央やや右に題箋貼付あり(上：「村上島之丞 蝦夷島奇観 上」、下「村上島之丞 蝦夷島奇観 下」。表紙右上に所蔵館の蔵書ラベル貼付。表紙右下に付箋貼付「この資料はデジタルライブラリーで公開しています」。裏表紙右上に所蔵館のラベル貼付(バーコード付)。											
構成	場面番号と画題			絵	詞書	東博本	備考					
上巻												
1オ	見返		(白紙)									
2オ	1ウ		(白紙)									
3オ	2ウ		(白紙)									2ウ中央下部に蔵書印あり
4オ	3ウ	1	(蝦夷カ) □ □ 郡嶋図	○	○	1-3						地図の南北が東博本と逆。地図中に地名などの書き込みなし。詞書が東博本より長い(日本紀廿八年條の記載あり)。
		2	(ヲンカミ図)	○	○	2-2						着物の描写に東博本と相違あり。左から2番目の人物は黒髪(東博本は白髪)。
5オ	4ウ	3	(ヲンカミ図其三(ウリリ))	○	○	2-4						腰マキリ、耳金の描写なし。着物の文様に東博本と相違あり。
		4	(ヲンカミ図其二(列座))	○	○	2-3						耳金の描写なし。着物の描写に東博本と相違あり。
6オ	5ウ	5	(ヲンカミ図其四(女夷礼))	○	○	2-5						腰マキリの描写なし。
		6	(鼓絃図)	○	○	3-7						料紙端裏下に墨書あり(判読不能)。カに薄赤系の着色。カを演奏する人物の顔が左下向き(東博本は正面)。

7オ	6ウ	7	(捕鷲図)	○	○	7-5	ワシ尾羽に斑の描写あり。小屋の右下の川辺に木幣の絵と詞書あり(東博本にはない)。
		8	(衝鮭図)	○	○	7-6	川の対岸の描写なし。木が画面中央に大きく描写。サケの数が東博本より多い。
8オ	7ウ	9	(唐太島夷図)	○	○	12-2	画面右下の中国製絹反物の描写に東博本と相違あり。イヌの首輪と紐、着物に赤色系の着色。
		10	(山丹錦図)	○	○	x	牡丹文の着物の描写と詞書「山丹人持渡る錦数品あり、如図の服も品々あり、皆古服あり、新しき巻錦も来る」あり。
9オ	8ウ	11	(判官岬図)	○	○	12-5	料紙端裏下に墨書あり(判読不能)。
		12	カラフト酋長墓	○	x	12-7	墓上部の長板に黒色系の着色。
10オ	9ウ	13	カラフト女夷墓	○	x	12-8	墓の左右に小枝(実(花)の部分に赤色系の着色)あり。墓に薄黒色系の着色と模様の描写あり。
		14	(マチコル図・マチコル説)	○	○	3-2、3-3	絵と詞書を一つの料紙に描写。貝の灯明皿の横に木幣の描写あり。炉の奥側にゴザの描写なし。
11オ	10ウ	15	(飲酒図)	○	○	3-4	踊る男性の奥に人物描写あり(全体で8人描写。東博本は7人)。台盃の椀の外側に黒色系の着色なし。
		16	(タフカリ図)	○	○	3-5	着物の文様、着色に東博本と若干の相違あり。画面右のゴザ上に台盃が2つ描写(東博本は1つ)。
12オ	11ウ	17	(エモシ図)	○	○	5-5	エモシの周縁部に薄黒色系の着色(東博本は白色系の着色)。詞書の後半に東博本と相違あり。
		18	(ウカリ稽古図)	○	○	3-8	画面右及び左の人物の数とポーズに東博本と相違あり。
13オ	12ウ	19	(ウカリ真行図)	○	○	3-9	画面右の女性が持つ笹と桶の着色に東博本と相違あり。こん棒を持つ人物の左に4人描写(東博本は6人)。
		20	(古陶器図)	○	○	5-13	画面中央上の陶器に薄茶系の着色(東博本は薄青系)。画面右の陶器の文様に黒色系の着色(東博本は文様以外の部分に薄黒系の着色)。
14オ	13ウ	21	(古陶器図其三 附雷斧)	○	○	5-15	画面右の陶器に薄茶色系の着色。
		22	(古陶器図其二)	○	○	5-14	陶器全体に薄茶色系の着色。
15オ	14ウ	23	(石刀石劔鎌石図)	○	○	5-12	画面左上の石刀3つなどの着色に東博本と相違あり。
		24	(ラッコ図)	○	○	11-10	ラッコの毛に黒色系の着色(東博本は茶色系)。ラッコの顔の描写に東博本と相違あり。
15ウ	25	(熊祭酒宴図)	○	○	6-6	着物の文様、着色に東博本と相違あり。画面右下の人物の数、ゴザ上の漆器の種類などに東博本と相違あり。	
16オ	26	(熊祭踊図)	○	○	6-2	着物の着色、文様描写に東博本と相違あり。画面左に裸の子どもの描写あり。地面に草の描写あり。	
16ウ	27	(熊祭花矢射図)	○	○	6-3	着物の着色、文様描写に東博本と相違あり。地面に草の描写あり。クマの右上に裸の子どもの描写あり。画面手前に手を広げ右を向く着服した子どもの描写あり(東博本は裸)。クマに刺さる花矢は5本で白色系の着色(東博本は黒色系3本)。地面に花矢2本の描写あり。	
17オ	28	(熊祭挾殺図)	○	○	6-4	着物の着色、文様に東博本と相違あり。地面に草の描写あり。大木3本描写あり(東博本は2本)。木の上に15人の描写あり(うち1人は白髪、1人は裸の子ども。東博本は黒髪の男性10人)。太刀の鞘や綱に赤色系の着色あり。	
18オ	17ウ	29	(熊祭神酒飲図)	○	○	6-5	祭壇正面の木幣の形は傘型(白色系の着色なし)。祭壇上の漆器の数、文様に東博本と相違あり。着物の着色、文様に東博本と相違あり。地面に草の描写あり。画面右上の漆器、太刀を運ぶ人物は裸の子ども1人を含め3人(東博本は裸の子どもを含めて4人)。画面右下に漆器を持つ男性2人の描写あり(東博本は裸の子ども1人)。
		30	(ケ子トブシ肖像)	○	○	11-11	着物の着色、文様に東博本と相違あり。
裏見返		18ウ	(白紙)				
			(白紙)				北海道の検収印あり「34.3.7-」
下巻							
1オ	見返		(白紙)				
2オ	1ウ		(白紙)				
3オ	2ウ		(白紙)				2ウに蔵書印「57211」あり。
4オ	3ウ	31	(オットセイ獵準備図)	○	○	8-2	短い詞書あり(東博本は8-1(オットセイ獵総説)にあり)。家の屋根に雪の描写なし。玄関が画面右側に描写。家の右に小枝・頭骨の描写なし。画面左下に船と人物2人の描写あり(東博本は画面左中央に船と人物3人描写)。画面手前の漆器や木幣の数に東博本と相違あり。
		32	(オットセイ銚突図)	○	x	8-3	銚先の形、水鳥の数と描写位置に東博本と相違あり。
4ウ	33	(とり獲て家に帰る図)	○	○	8-4	詞書「ウ子ヲを獲来れ八窓よりいるゝ、かくせされ八重てゑかたしとなん」あり(東博本に記載なし)。	

5オ		34	(獲来て会所に出す図)	○	○	8-5	着物の文様、着色に東博本と相違あり。会所の玄関でオットセイの検分や下賜をする描写あり(東博本は居間)。
6オ	5ウ	35	海狗腎	○	○	8-7	
		36	(オットセイ浮腫図)	○	○	8-8	水鳥の向きや描写位置などに東博本と相違あり。オットセイの腹部の描写なし。
7オ	6ウ	37	塩製になしたる図	○	×	8-6	オットセイは右向きに描写(東博本は左向き)。
		38	ヲ、子ツブ図	○	×	8-9	毛の描写などに東博本と相違あり。
8オ	7ウ	39	(本草綱目からの引用)	×	○	8-10	
		40	(鑑岩図)	○	○	11-3	木や岩などの描写が東博本より粗雑。
	8ウ	41	チャノボリ 祖父獄図	○	○	11-2	料紙の端裏下に「二十」と墨書。木や岩などの描写が東博本より粗雑。
9オ		42	(エトロー島夷図)	○	○	11-4	東博本より木が太く描写。地面に草の描写なし。着物などの着色に東博本と相違あり。
	9ウ	43	モロチキナ	○	○	11-6	東博本より粗雑。画面下の草は根から中央部にかけて茶色系の着色。
10オ		44	テンキ	○	○	11-7	全体に薄黒色系の着色(東博本は黄色系の着色)。
	10ウ	45	バシクル(鳥図)	○	○	11-8	料紙の端裏下に「二十□(一カ)」と墨書。全体に薄黒色系の着色(東博本は黒色系)。
11オ		46	シルカルウシ(エブリコ写生)	○	○	11-5	エブリコに薄黒色系の着色(東博本は緑色系)。
	11ウ	47	病衆(タシュニクル図)	○	○	2-6	料紙の端裏下に「二十」と墨書。着物の文様、着色に東博本と相違あり。画面中央奥の漆器、太刀の文様、着色に東博本と相違あり。炉に木幣3つあり(東博本は2つ、もう1つは病人の頭の右上に描写)。
12オ		48	(ヲチュエ図(葬礼図))	○	○	2-7	着物の文様、着色に東博本と相違あり。地面にゴザの描写なし。太刀、短刀の金具に赤色系、青色系の着色。
	12ウ	49	其二(ヲチュエ図其二(家焼却))	○	○	2-8	炎に黄色系の着色、火の粉の描写なし。着物、漆器、矢筒、太刀などの着色に東博本と相違あり。
13オ		50	其三(ヲチュエ図其三(メッカウチ))	○	○	2-9	着物の文様、太刀鞘、柄の着色に東博本と相違あり。
	13ウ	51	(ニヨエン図)	○	○	3-10	料紙の端に「六」と墨書。着物の文様、太刀鞘、懸紐の着色に東博本と相違あり。海岸の形に東博本と相違あり。
14オ		52	西夷地墓	○	×	2-11	木幣の形や着色に東博本と相違あり。
	14ウ	53	其四(男夷墓・女夷墓)	○	○	2-10	料紙の端裏下に「三十□(判読不能)」と墨書。弓矢、矢筒などの文様、着色に東博本と相違あり。綱に吊金具の描写なし。
15オ		54	ベラシトミカモ井	○	○	5-2	
	15ウ	55	(ベラシトミカモ井写生)	○	○	5-3	料紙の端裏下に「三十六」と墨書。詞書「ベラシトミカモ井一日キラウシトシカモ井俗曰鉄先、子モロ地名酋長シヨング所蔵器なり、大サ如図」とあり(東博本に記載なし)。
16オ		56	(トモチクシ地図)	○	○	7-12	画面左に海岸、人物の描写なし(料紙奥が切断され欠損)。
	16ウ	57	エンルモ岬	○	○	7-10	陸上に7頭のシカの描写あり(東博本は4頭)。
17オ		58	(附録 見初月図)	○	○	7-13	月の形が逆三日月(東博本は三日月)。
	17ウ	59	カシケクロクチ	○	○	9-3	画面左の花に「玫瑰花(マウタ)」の語なし。リスの尾に黒色系の着色。
18オ		60	イケマ蔓草	○	○	9-6	葉の大きさが東博本より小さく描写。花の描写が東博本より粗雑。
	18ウ	61	ホロチブ(大舟)	○	○	5-9	艦、板の縁などに薄黒色系の着色。
19オ		62	チブ(舟)	○	○	5-10	板の縁に若干の薄黒色系の着色。
	19ウ	63	(舟具図)	○	×	5-11	画面左下の舟に「走舟」と記載あり(東博本は「懸帆船」)。
20オ		64	ニカップ(ニカップを剥図)	○	○	4-6	詞書に東博本と相違あり。地面に剥皮の描写あり。
	20ウ	65	アッドシカル	○	○	4-7	画面左上に「ニカップ葉写生」の絵あり。織機の糸に薄赤色系の着色。織機の部品に名称(アイヌ語)表記あり。子どもの描写に東博本と相違あり。家に玄関の描写なし。家の手前に木の描写あり。画面手前に地面・草の描写あり。
裏見返			(白紙)				北海道の検取印「34.3.7」あり。
摘要	<p>【体裁の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約30.0×40.0cmの厚手の洋紙を台紙として仕立てた折帖に、約27.7×37.7cmの大きさの料紙を貼付したものである。 ・料紙の天地端奥において絵が切断されているものも見られる。 ・料紙自体は薄美濃紙を裏打ちした薄美濃紙(2枚重ね)に絵と詞書を描写したもので、江戸時代のもとのと推測される。 <p>【内容の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東博本収録の場面の約半数が、上下巻の2冊にわたって貼付されている。 ・場面10(山丹錦図)のみ東博本にはない場面である。 ・絵や詞書の内容は東博本とよく似ているが、異なる部分も多々見受けられる。 ・絵の描き方は東博本とは異なる。 ・詞書の筆蹟は、東博本と同筆と見られるものもある(例えば場面9(唐太島夷図))。 						

凡例

- ・筆者が調査した資料の調書を帳票形式で示した。本稿では、調査番号1～11の11件を取り上げた。
- ・調書作成に際しては、『蝦夷島奇観』の完成形とされる東博本を分析の基準とした。74頁の表「東博本の構成と画題」は、東博本収録の137の場面を整理したものである。各場面の画題は料紙に示されるものと各巻冒頭の目録に示されるものの2者を示した。なお、東博本の「六 熊祭部」には、白紙の料紙が冒頭に1枚含まれている(番号59・6-1)。本稿では、これも一つの場面として含め通番と巻番を仮に付した。
- ・本文中の〔 〕内は、筆者が付加した内容であることを示す。
- ・「資料名」欄には、原則として資料所蔵館が付した名称を示した。
- ・「形態」欄には、卷子本、折本、冊子本など資料の形態を示した。
- ・「所蔵番号」欄には、所蔵館における整理番号、請求番号などを示した。
- ・「調査番号」欄には、筆者による整理番号を示した。
- ・「法量」欄の法量の記載は、縦×横(×高さ)の順に示した。
- ・「構成」欄は、資料の形態により示し方を変えている。卷子本の場合は料紙ごとに示し、料紙1枚の横の法量を示した。折本や冊子本の場合は、見開き時(展開時)の状態の丁番を示した。
- ・「場面番号と画題」欄には、出てくる順番どおりに仮番号を付し、画題を示した。料紙に画題が示されている場合はそのまま、画題がない場合や独自の画題などの場合は、東博本などを参考に筆者が〔 〕で示した。
- ・「絵」「詞書」欄には、各場面における有無を示した。例えば、一つの場面中に絵、詞書の両方の描写があれば、両欄に「○」を付けた。「詞書」については、単なる画題表記などの場合には「×」とし、たとえ短文であっても説明のあるものは「○」とした。
- ・「東博本」欄には、当該場面の東博本における巻番号を示した(巻番号は74頁の表に基づく)。絵や詞書の内容が東博本と懸隔していても、類似の場面であれば巻番号を示した。東博本にはない場面の場合は、「×」と記し、そのセルを10%グレーで示した。
- ・「備考」欄は、各場面の特徴や東博本との相違点などを記した覚書である。「継2」は「料紙2枚継紙」の略である。人物の顔や髪、衣服の文様、輪郭線、詞書の文言や行立ての相違など、写本間で一般に見られる事象については煩雑さを避けるため採録しなかった。今後の研究の進展につれ、遺漏や誤認などが発見される可能性は十分あるが、分析の促進のためには敢えて示すことも必要と判断し、間違いを恐れず示すこととした。
- ・「摘要」欄は、資料の体裁の特徴、内容の特徴、その他気付いたことなどを整理したものである。

付記

本稿は、科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)・基盤研究(C)「『蝦夷島奇観』成立史と写本構造に関する研究—「アイヌ文化成立」言説の探究—」(課題番号:23K00805、研究期間:令和5(2023)～令和9(2027)年度、研究代表者:東俊佑)による研究成果の一つである。

註

- (1) 秦憶丸(1760-1808)は、絵図の作製を主な生業とする幕府雇の役人である。役人としては「村上島之允」と名乗り、作製した多くの作品には「秦憶丸」と自署している。1760(宝暦10)年に現在の三重県伊勢市で生まれた憶丸は、1798(寛政10)年に幕府の支配勘定・近藤重蔵の蝦夷地調査隊に絵図師・算者として随行して以降、幕府高官の巡視随行に駆り出され、蝦夷地図作製に奔走する。その過程で知り得たアイヌの実情を伝えるために制作したのが『蝦夷島奇観』である。秦憶丸や『蝦夷島奇観』の詳細については、谷澤尚一・佐々木利和編『秦憶丸自筆 蝦夷島奇観』(谷澤・佐々木 1982)を参照のこと。また、憶丸の作品については、北海道博物館第5回特別展「アイヌ語地名と北海道」においてその一部が展示された(特別展図録は北海道博物館編『アイヌ語地名と北海道』(北海道博物館 2019))。
- (2) 例えば北海道博物館所蔵の『ウカリ図』(早坂文嶺筆、収蔵番号126248)、『メノコ図』(早坂文嶺筆、126249)、『熊送り図』(木村巴江筆、126260)、『熊送り図』(木村巴江筆、126261)はそのような事例であり、日本や海外の博物館・美術館をはじめとする各種資料保存機関にそのような作品が見られる。
- (3) 谷澤尚一は『松浦竹四郎研究会会誌』第3号の巻頭記事「史料をさがし求めて—谷澤尚一会員に聞く—」で「『蝦夷島奇観』の場合でも六十五種類チェックしているんですよ。それだけで十年はかかっているんですよ。ですから、それらを全部見たので自筆本は三種類しかないということが確認できたんですよ。矢張り見なければわからないですね。」(谷澤 1985:9)と述べている。したがって憶丸の自筆本、写本を含めた総数は65件以上であると想定できる。

参考文献

- 故林昇太郎氏遺作論集刊行会編 2010. アイヌ絵とその周辺: 林昇太郎美術史論集. 故林昇太郎氏遺作論集刊行会.
- 谷澤尚一・佐々木利和編 1982. 秦憶丸自筆 蝦夷島奇観. 雄峰社.
- 谷澤尚一 1985. 史料をさがし求めて—谷澤尚一会員に聞く—. 松浦竹四郎研究会会誌 3.
- 北海道開拓記念館編 1997. 妻沼コレクション資料目録(一括資料目録第30集). 北海道開拓記念館.
- 北海道大学附属図書館編 1981. 北海道関係地図・図類目録: 北方地域図および日本図等も含む. 北海道大学附属図書館.
- 北海道大学附属図書館編 1990. 日本北辺関係旧記目録. 北海道大学図書刊行会.
- 北海道庁編 1932. 北海道庁所蔵旧記目録. 北海道庁長官官房文書課.
- 北海道博物館編 2019. アイヌ語地名と北海道(第5回特別展図録). 北海道博物館.
- 山際晶子 2012. 北海道開拓記念館所蔵の『蝦夷島奇観』写本をめぐって: 平沢屏山筆絵画との関係. 北海道開拓記念館 40.
- 山際晶子 2013. 早坂文嶺筆『蝦夷島奇観』写本について. 北海道開拓記念館研究紀要 41.

Studies on the Manuscripts of *Ezogashima Kikan*, Part 1

AZUMA Shunsuke

This study reports on investigations of manuscript materials of *Ezogashima Kikan*, a collection of drawings created by Hata Awakimaru (also known by the name of Murakami Shimanojo) based upon his travels in Ezochi. It is thought that Hata first established *Ezogashima Kikan* in 1799, then later revised and supplemented his work multiple times until its final completion in 1807. The original work is designated as an Important Cultural Property of Japan, and is housed in the Tokyo National Museum collection. It is presumed that at least 65 *Ezogashima Kikan* manuscripts exist, primarily held by historical material storage facilities throughout

Japan. This study reports on 11 such manuscripts investigated by the author in fiscal 2023. In addition to basic information such as material name, quantity, format (scroll, folding book, bound book), storage facility name, dimensions, and remarks (presence of cover, number of pages, presence of title pages, etc.), the report also includes summaries of illustration captions and scene names (where illustrations do not include descriptions, we refer to the scene names and descriptions of *Ezogashima Kikan* housed in the Tokyo National Museum collection), and memos of any notable visual characteristics of each scene.